

第7期茅ヶ崎市障がい者保健福祉計画策定
アンケート調査報告書

【集計結果】

令和5年3月
茅ヶ崎市

目次

第1章 調査概要	1
1 調査の目的.....	2
2 調査方法	2
3 調査票の配付・回収数.....	2
4 留意事項.....	3
第2章 集計結果.....	5
1 ご本人等について.....	6
2 情報の取得について.....	19
3 悩みごとや心配ごとについて.....	22
4 障がいの理解について.....	28
5 健康・医療について	31
6 日常生活について.....	34
7 働くことについて.....	40
8 就学・就労について	43
9 趣味や外出について.....	47
10 障がいの認知・進路選択について	51
11 安全・安心な暮らしについて.....	63
第3章 調査結果のまとめ	75
1 身近な地域の支援体制の強化【基本方針1】.....	76
2 障がい者の健康を支える体制の強化【基本方針2】.....	84
3 障がい者の生活基盤の強化【基本方針3】.....	85
4 社会参加と自己実現への支援【基本方針4】.....	87
5 障がいのある子どもの成長支援【基本方針5】.....	91
6 安心して暮らす【基本方針6】	96

第1章 調査概要

1 調査の目的

このアンケート調査（以下、本調査）は、障がいのある方を対象に、障がいの状況や日常生活での困りごと、施策に対する意見や要望等を伺い、令和6年度から始まる「第7期茅ヶ崎市障がい者保健福祉計画」を策定するための基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査方法

実施時期	令和5年1月23日（月）～2月10日（金）
配布・回収方法	・身体障がいの方、知的障がいの方、精神障がいの方、難病の方、障がい児については、各対象の方に郵送による発送・回収を実施。 ・発達障がい・高次脳機能障がいの方については、関係団体や地域活動支援センター等に配布を依頼し、各対象から郵送による回収を実施。

3 調査票の配付・回収数

各調査の対象者・配付・回収等については、下表のとおりです。
全体で1,300票配付し、623票（回収率47.9%）の回収がありました。

調査票区分	対象者 (基準日：令和4年10月1日時点)	配布数	回収数
身体障がい	市内在住で18歳以上の身体障害者手帳所持者から無作為抽出	510件	264件 (51.8%)
知的障がい	市内在住で18歳以上の療育手帳所持者から無作為抽出	250件	108件 (43.2%)
精神障がい	市内在住で18歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者から無作為抽出	240件	108件 (45.0%)
発達障がい・ 高次脳機能障がい	市内在住、在勤・在学等で発達障がいあるいは高次脳機能障がいの診断を受けている方	50件	18件 (36.0%)
難病	市内在住、在勤・在学等で難病（366疾患）の診断を受けている方	50件	17件 (34.0%)
障がい児	市内在住で18歳未満の身体障害者手帳、療育手帳あるいは精神障害者保健福祉手帳所持者、障害児通所給付の支給決定を受けている方から無作為抽出	200件	108件 (54.0%)

4 留意事項

- 設問には1つのみ答える単数回答（SA：シングルアンサー）と、複数回答（MA：マルチアンサー）があり、複数回答の設問では表記の割合の合計が100%を超えます。
- 表中の割合は選択肢ごとに回答者数（n）を基数とした百分率で表し、小数第二位で四捨五入しているため、その割合の合計が100%にならないものがあります。
- 設問文や選択肢について、内容を損なわない範囲で要約して表記したものが 있습니다。
- 身体障がい（身体）、知的障がい（知的）、精神障がい（精神）、発達障がい・高次脳機能障がい（発達・高次）、難病の調査項目は共通となっており、障がい児（障児）では一部調査項目が異なります。調査票種別に対応する問番号は以下のように表しています。

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問00	障児	問00-
-------------------	-----	----	------

第2章 集計結果

1 ご本人等について

(1) アンケートの記入者 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病	-	障児	-
-------------------	---	----	---

- 全体では、「ご本人が記入」（40.4%）が最も高くなっています。
- 障がい種別にみると、身体障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、難病では「ご本人が記入」、知的障がい、障がい児では「ご本人の意見を確認することが難しいので、ご家族や介護者、事業所の職員などが記入」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
ご本人が記入	%	40.4	49.6	22.2	66.7	50.0	52.9	6.5
ご本人の意見をご家族や介護者などが記入	%	18.6	15.9	20.4	9.3	27.8	23.5	30.6
ご本人の意見を確認することが難しいので、ご家族や介護者、事業所の職員などが記入	%	17.2	6.8	30.6	2.8	5.6	11.8	46.3
無回答	%	23.8	27.7	26.9	21.3	16.7	11.8	16.7

※最も回答割合が高い項目について網をかけています（以下同）。

(2) 性別 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問1	障児	問1
-------------------	----	----	----

- 全体では、男性（57.1%）、女性（39.5%）となっています。
- 障がい種別でみると、身体障がい、知的障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、障がい児では「男性」、精神障がい、難病では「女性」と回答した割合が高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい・ 高次脳機能障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
男性	%	57.1	53.8	63.9	45.4	88.9	41.2	67.6
女性	%	39.5	42.8	31.5	50.0	11.1	58.8	30.6
どちらでもない	%	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
答えたくない	%	0.5	0.0	0.9	1.9	0.0	0.0	0.0
無回答	%	2.7	3.4	3.7	2.8	0.0	0.0	0.9

(3) 年齢 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問2	障児	問2
-------------------	----	----	----

- 全体では、65～74歳（12.8%）、75歳以上（22.3%）となっており、あわせると35.1%が高齢者となっています。
- 障がい種別の内訳は下表のとおりです。

	単位	全体	調査票種類						
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児	
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108	
10代	10歳未満	%	18.8	1.6	0.8	5.6	0.0	11.1	43.5
	10歳以上	%							55.6
20代	%	7.1	2.7	23.1	8.3	11.1	5.9		
30代	%	10.0	0.4	33.3	17.6	33.3	0.0		
40代	%	11.1	8.0	16.7	21.3	16.7	23.5		
50代	%	12.2	11.0	11.1	25.9	27.8	11.8		
60～64歳	%	3.7	4.9	1.9	5.6	0.0	11.8		
65～74歳	%	12.8	23.1	3.7	10.2	0.0	23.5		
75歳以上	%	22.3	47.7	0.0	8.3	0.0	23.5		
無回答	%	2.1	1.5	4.6	2.8	0.0	0.0	0.9	

(4) 現在お住まいの地区 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病 問3

障児

問3

- 全体では、「湖北地区」（13.0%）と回答した割合が最も高くなっています。
- 障がい種別でみると、回答した割合が最も高いのは、身体障がいでは「茅ヶ崎地区」、知的障がいでは「鶴嶺東地区」、「湘北地区」、精神障がい、障がい児では「松林地区」、発達障がい・高次脳機能障がいでは「湘北地区」、「小和田地区」、「松浪地区」、難病では「鶴嶺東地区」となっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
茅ヶ崎地区	%	9.8	13.3	4.6	10.2	11.1	11.8	5.6
茅ヶ崎南地区	%	6.1	8.3	3.7	4.6	5.6	5.9	4.6
南湖地区	%	4.7	6.1	5.6	0.9	0.0	0.0	5.6
海岸地区	%	4.8	4.2	3.7	8.3	5.6	0.0	4.6
鶴嶺東地区	%	12.0	11.4	16.7	9.3	0.0	29.4	11.1
鶴嶺西地区	%	5.3	5.3	4.6	8.3	0.0	0.0	4.6
湘南地区	%	5.3	6.1	3.7	0.9	5.6	11.8	8.3
松林地区	%	10.4	8.0	8.3	13.9	5.6	0.0	17.6
湘北地区	%	13.0	11.7	16.7	12.0	16.7	17.6	12.0
小和田地区	%	5.5	3.4	7.4	8.3	16.7	5.9	3.7
松浪地区	%	9.8	11.0	4.6	10.2	16.7	0.0	12.0
浜須賀地区	%	5.3	4.9	4.6	4.6	5.6	0.0	8.3
小出地区	%	5.0	4.5	10.2	3.7	0.0	17.6	0.9
無回答	%	3.0	1.9	5.6	4.6	11.1	0.0	0.9

※各地区については、回答いただいた字名を下記のとおり合算しています。

1. 茅ヶ崎地区……「茅ヶ崎」「元町」「新栄町」「本村」「十間坂」
2. 茅ヶ崎南地区…「幸町」「若松町」「共恵」「中海岸」
3. 南湖地区……「南湖」
4. 海岸地区……「東海岸北」「東海岸南」
5. 鶴嶺東地区…「下町屋」「浜之郷」「矢畑」「円蔵」「西久保」
6. 鶴嶺西地区…「今宿」「平太夫新田」「萩園」
7. 湘南地区……「中島」「松尾」「柳島」「柳島海岸」「浜見平」
8. 松林地区……「赤羽根」「高田」「室田」「菱沼」「松林」
9. 湘北地区……「鶴が台」「松風台」「香川」「甘沼」「みずき」
10. 小和田地区…「小桜町」「小和田」「代官町」「本宿町」「赤松町」
11. 松浪地区……「浜竹」「松浪」「出口町」「ひばりが丘」「美住町」「常盤町」「富士見町」「汐見台」「緑が浜」
12. 浜須賀地区…「旭が丘」「松が丘」「平和町」「菱沼海岸」「浜須賀」「白浜町」
13. 小出地区……「堤」「芹沢」「行谷」「下寺尾」

(5) 認定を受けている障がいの種類や等級等

身体・知的・精神・発達・高次・難病

問4

障児

問4

① 身体障害者手帳の等級 【単数回答】

- 身体障がいでは、「1級」（34.1%）と回答した割合が最も高く、「4級」（20.1%）と続きます。
- 身体障がい以外の障がい種別でみると、身体障害者手帳の取得をしている割合は、知的障がいの15.7%、精神障がいの13.9%、発達障がい・高次脳機能障がいの16.8%、難病の64.8%、障がい児の25.0%となっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
1級	%	18.8	34.1	5.6	3.7	5.6	35.3	9.3
2級	%	9.8	15.2	4.6	3.7	5.6	11.8	8.3
3級	%	6.4	10.2	3.7	3.7	5.6	5.9	2.8
4級	%	9.5	20.1	0.0	1.9	0.0	5.9	2.8
5級	%	3.5	6.8	0.9	0.9	0.0	5.9	0.9
6級	%	3.0	6.4	0.9	0.0	0.0	0.0	0.9
無回答(該当なし)	%	49.0	7.2	84.3	86.1	83.3	35.3	75.0

② 身体障害者手帳の種類 【単数回答】

- 身体障がいでは、「肢体不自由」（32.2%）と回答した割合が最も高くなっています。
- 身体障がい以外の障がい種別でみると、知的障がい、難病、障がい児では、「肢体不自由」、精神障がいでは「内部障がい」、発達障がい・高次脳機能障がいでは「音声・言語」、「肢体不自由」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
視覚障がい	%	3.7	7.6	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚障がい	%	3.5	7.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9
音声・言語	%	0.6	0.8	0.0	0.9	5.6	0.0	0.0
肢体不自由	%	19.4	32.2	9.3	1.9	5.6	41.2	14.8
内部障がい	%	11.9	23.5	0.9	2.8	0.0	17.6	4.6
無回答(該当なし)	%	60.8	28.4	87.0	94.4	88.9	41.2	78.7

③ 療育手帳の等級 【単数回答】

- 知的障がいでは、「B2」（29.6%）と回答した割合が最も高くなっています。
- 知的障がい以外の障がい種別でみると、療育手帳の取得をしている割合は、身体障がい、精神障がい、難病では10%未満となっていますが、発達障がい・高次脳機能障がいの33.4%、障がい児の55.6%となっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
A1	%	8.8	4.5	22.2	0.0	0.0	0.0	17.6
A2	%	6.4	0.0	23.1	0.9	5.6	0.0	12.0
B1	%	5.0	0.4	16.7	0.0	11.1	0.0	9.3
B2	%	8.8	0.4	29.6	0.9	16.7	0.0	16.7
なし	%	18.8	28.0	0.9	10.2	0.0	29.4	24.1
無回答(該当なし)	%	52.2	66.7	7.4	88.0	66.7	70.6	20.4

④ 精神障害者保健福祉手帳の等級 【単数回答】

- 精神障がいでは、「2級」（56.5%）と回答した割合が最も高くなっています。
- 精神障がい以外の障がい種別でみると、精神障害者保健福祉手帳の取得をしている割合は、身体障がい、難病、障がい児では10%未満となっていますが、知的障がいの10.2%、発達障がい・高次脳機能障がいの44.4%となっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
1級	%	2.7	1.1	5.6	7.4	0.0	0.0	0.0
2級	%	12.5	1.9	3.7	56.5	22.2	5.9	2.8
3級	%	5.8	1.1	0.9	25.9	22.2	0.0	0.0
なし	%	22.8	30.3	12.0	1.9	5.6	35.3	37.0
無回答(該当なし)	%	56.2	65.5	77.8	8.3	50.0	58.8	60.2

⑤ 自立支援医療（精神通院医療）の受給の有無 【単数回答】

- 全体では、18.0%が「受給している」と回答しています。
- 障がい種別でみると、「受給している」と回答した割合は、身体障がい、知的障がい、障がい児では10%未満となっていますが、精神障がいの74.1%、発達障がい・高次脳機能障がいの33.3%、難病の11.8%となっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
受給している	%	18.0	3.8	8.3	74.1	33.3	11.8	4.6
受給していない	%	29.1	39.0	22.2	1.9	5.6	29.4	42.6
無回答	%	53.0	57.2	69.4	24.1	61.1	58.8	52.8

⑥ 医師等から診断を受けているもの 【単数回答】

- 発達障がい・高次脳機能障がいでは、「発達障がい」（33.3%）、「高次脳機能障がい」（50.0%）となっています。
- 難病では、無回答を除く全員が「難病」と回答しています。
- 発達障がい・高次脳機能障がい、難病以外の障がい種別でみると、「発達障がい」、「高次脳機能障がい」、「難病」のいずれかの診断を受けている割合は、身体障がいの19.7%、知的障がいの38.0%、精神障がいの33.3%、障がい児の42.6%となっています。また、「発達検査のみ受検」と回答した割合は、身体障がい、知的障がい、精神障がいでは10%未満となっていますが、障がい児の15.7%となっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
発達障がい	%	12.8	0.0	24.1	11.1	33.3	0.0	33.3
高次脳機能障がい	%	3.5	2.3	1.9	4.6	50.0	0.0	0.0
発達検査のみ受検	%	3.5	0.8	2.8	0.0	0.0	0.0	15.7
難病	%	16.2	17.4	12.0	17.6	0.0	76.5	9.3
無回答	%	63.9	79.5	59.3	66.7	16.7	23.5	41.7

(6) 現在、生活している場所・人

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問5	障児	問5
	問5-1		問5-1

① 生活している場所 【単数回答】

- 全体では、「自宅」（90.0%）と回答した割合が最も高くなっています。
- 障がい種別でみると、いずれの障がいにおいても「自宅」と回答した割合が高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
自宅	%	90.0	91.3	80.6	88.9	83.3	94.1	98.1
病院に入院	%	1.1	2.3	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0
グループホームに入居	%	2.9	0.8	8.3	4.6	11.1	0.0	0.0
施設等に入所	%	3.2	3.8	6.5	0.0	5.6	5.9	0.9
その他	%	0.6	0.4	0.9	1.9	0.0	0.0	0.0
無回答	%	2.1	1.5	3.7	3.7	0.0	0.0	0.9

② 生活している人 【複数回答】

※①で「自宅」と回答した方のみ

- 全体では、「親」（48.1%）と回答した割合が最も高く、「配偶者」（31.6%）と続きます。なお、「一人暮らし」と答えた割合は、9.8%となっています。
- 障がい種別でみると、身体障がい、難病では「配偶者」、知的障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、障がい児では「親」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	561	241	87	96	15	16	106
一人暮らし	%	9.8	11.2	1.1	25.0	0.0	18.8	0.0
配偶者	%	31.6	56.0	0.0	31.3	20.0	56.3	0.0
親	%	48.1	13.3	92.0	40.6	80.0	25.0	97.2
子ども	%	20.9	37.8	0.0	18.8	6.7	43.8	0.0
兄弟・姉妹	%	23.5	5.0	47.1	8.3	26.7	12.5	61.3
祖父・祖母	%	3.7	1.7	6.9	0.0	0.0	6.3	9.4
施設などの職員や仲間	%	0.2	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	%	2.1	2.5	2.3	2.1	0.0	12.5	0.0
無回答	%	1.6	2.1	1.1	0.0	0.0	0.0	2.8

(7) 月収 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病

問6

障児

問6

- 全体では、「1万円以上10万円未満」（30.0%）と回答した割合が最も高く、「10万円以上20万円未満」（27.3%）と続きます。
- 障がい種別でみると、身体障がい、精神障がいでは「10万円以上20万円未満」、知的障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、難病では「1万円以上10万円未満」、障がい児では「なし」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
1万円未満	%	3.2	1.9	3.7	6.5	5.6	0.0	2.8
1万円以上 10万円未満	%	30.0	28.0	54.6	28.7	38.9	47.1	7.4
10万円以上 20万円未満	%	27.3	34.1	26.9	41.7	16.7	17.6	0.0
20万円以上	%	12.8	25.0	3.7	4.6	11.1	17.6	0.0
なし	%	22.6	7.6	3.7	14.8	27.8	17.6	86.1
無回答	%	4.0	3.4	7.4	3.7	0.0	0.0	3.7

(8) 障害福祉サービス等の利用について

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問7	障児	問7
	問7-1		問7-1

① サービス等の利用の有無 【単数回答】

- 全体では、「利用していない」（56.0%）と回答した割合の方が高くなっています。
- 障がい種別で見ると、「利用している」と回答した割合は、知的障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、難病では50%前後となっていますが、身体障がい（22.0%）、精神障がい（29.6%）では低く、障がい児（74.1%）では高い傾向がみられます。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
利用している	%	39.0	22.0	51.9	29.6	50.0	47.1	74.1
利用していない	%	56.0	73.1	41.7	62.0	50.0	47.1	25.0
無回答	%	5.0	4.9	6.5	8.3	0.0	5.9	0.9

② 障害福祉サービス等の利用で困ったこと 【複数回答】

※①で「利用している」と回答した方のみ

- 全体では、「特にない」（63.8%）と回答した割合が最も高くなっています。困ったことがある方の回答としては、「事業所の職員や他の利用者とうまくいかないことがある」（14.0%）が最も高くなっています。
- 障がい種別でみると、いずれの障がいにおいても「特にない」と回答した割合が最も高くなっています。困ったことがある方の回答としては、身体障がいでは「利用料金が負担になっている」、知的障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がいでは「事業所の職員や他の利用者とうまくいかないことがある」、難病では「事業所の職員や他の利用者とうまくいかないことがある」、「利用料金が負担になっている」、障がい児では「希望通りの時間や日数の利用ができない」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	243	58	56	32	9	8	80
事業所の職員や他の利用者とうまくいかないことがある	%	14.0	3.4	16.1	28.1	22.2	12.5	13.8
希望通りの時間や日数の利用ができない	%	10.3	6.9	8.9	9.4	0.0	0.0	16.3
利用料金が負担になっている	%	12.3	13.8	5.4	12.5	22.2	12.5	15.0
特にない	%	63.8	72.4	67.9	56.3	55.6	75.0	57.5
その他	%	6.2	3.4	8.9	9.4	0.0	0.0	6.3
無回答	%	2.5	1.7	3.6	0.0	11.1	0.0	2.5

2 情報の取得について

(1) 福祉サービス等の情報をどこから取得しているか 【複数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病

問8

障児

問8

- 全体では、「家族や友人」（27.9%）と回答した割合が最も高く、「広報ちがさき」（26.6%）、「特になし」（23.6%）と続きます。
- 障がい種別でみると、身体障がいでは「広報ちがさき」、知的障がい、障がい児では「家族や友人」、精神障がいでは「ホームページ」、発達障がい・高次脳機能障がいでは「障害福祉サービス事業所等」、難病では「広報ちがさき」、「障害福祉サービス事業所等」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
広報ちがさき	%	26.6	37.5	22.2	18.5	22.2	35.3	12.0
ホームページ	%	14.6	10.2	7.4	22.2	27.8	29.4	20.4
Twitter(ツイッター)	%	1.9	0.4	0.9	4.6	0.0	5.9	3.7
Facebook(フェイスブック)	%	0.3	0.4	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0
LINE(ライン)	%	3.5	3.0	0.9	2.8	5.6	11.8	6.5
新聞	%	7.1	10.6	4.6	4.6	11.1	5.9	2.8
テレビ	%	8.8	9.8	7.4	10.2	11.1	11.8	5.6
障害福祉サービス事業所等	%	18.0	9.5	31.5	16.7	50.0	35.3	18.5
相談支援事業所	%	18.5	11.4	22.2	18.5	27.8	23.5	29.6
家族や友人	%	27.9	16.3	45.4	18.5	44.4	17.6	47.2
その他	%	7.7	6.1	4.6	15.7	0.0	17.6	6.5
特になし	%	23.6	29.5	17.6	21.3	5.6	5.9	23.1
無回答	%	3.7	4.9	4.6	1.9	0.0	5.9	1.9

(2) 携帯電話、スマートフォンやタブレットについて所持・利用しているか

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問9	障児	問9
	問9-1		問9-1

① 携帯電話、スマートフォンやタブレットを持っているか 【単数回答】

- 全体では、「はい」(70.6%)と回答した割合の方が高くなっています。
- 障がい種別で見ると、身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、難病では、「はい」と回答した割合が高く、「いいえ」と回答した割合とも大きく差がありません。一方で、障がい児では、「いいえ」(54.6%)と回答した割合の方が高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
はい	%	70.6	76.1	63.0	87.0	83.3	82.4	44.4
いいえ	%	27.6	22.0	33.3	12.0	16.7	17.6	54.6
無回答	%	1.8	1.9	3.7	0.9	0.0	0.0	0.9

② 携帯電話、スマートフォンやタブレットで情報を取得しているか 【単数回答】 ※①で「はい」と回答した方のみ

- 全体では、「はい」(49.3%)と回答した割合の方が高くなっています。
- 障がい種別で見ると、知的障がい、障がい児では「いいえ」、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、難病では「はい」と回答した割合の方が高くなっています。身体障がいでは「はい」と「いいえ」の回答は同じ割合となっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	440	201	68	94	15	14	48
はい	%	49.3	48.8	42.6	54.3	53.3	64.3	45.8
いいえ	%	48.6	48.8	57.4	42.6	40.0	35.7	54.2
無回答	%	2.0	2.5	0.0	3.2	6.7	0.0	0.0

(3) 市が作成したチラシや冊子などの表現がわかりにくい 【複数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病

問 10

障児

問 10

- 全体では、「特にない」(57.1%)と回答した割合が最も高くなっています。表現がわかりにくいと感じた方の回答としては、「内容がよくわからない」(24.9%)が最も高くなっています。
- 障がい種別でみると、身体障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、難病、障がい児では「特にない」、知的障がいでは「内容がよくわからない」が最も高くなっています。表現がわかりにくいと感じた方の回答としては、いずれの障がいにおいても「内容がよくわからない」が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
漢字が難しい	%	6.1	1.5	13.0	6.5	5.6	0.0	11.1
内容がよくわからない	%	24.9	15.2	42.6	28.7	38.9	17.6	25.9
その他	%	12.0	7.6	22.2	10.2	11.1	11.8	14.8
特にない	%	57.1	69.7	33.3	59.3	44.4	58.8	50.0
無回答	%	5.5	6.8	5.6	1.9	0.0	11.8	5.6

3 悩みごとや心配ごとについて

(1) 悩みごとや心配ごとの種類 【複数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病 問11

障児

問11

- 全体では、「自分の健康や治療のこと」（43.5%）と回答した割合が最も高く、「生活費など経済的なこと」（37.9%）、「緊急時や災害時のこと」（32.9%）と続きます。
- 障がい種別でみると、身体障がい、発達障がい・高次脳機能障がいでは「自分の健康や治療のこと」、知的障がいでは「親亡き後のこと」、精神障がいでは「生活費など経済的なこと」、難病では「緊急時や災害時のこと」、障がい児では「将来のこと（進学、就職）」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
住まいのこと	%	17.3	14.8	16.7	33.3	27.8	17.6	6.5
恋愛や結婚のこと	%	8.2	2.7	10.2	19.4	16.7	11.8	6.5
自分の健康や治療のこと	%	43.5	47.7	31.5	67.6	61.1	52.9	16.7
生活費など経済的なこと	%	37.9	34.1	32.4	70.4	50.0	29.4	19.4
将来のこと（進学、就職）	%	22.2	4.2	13.9	41.7	38.9	17.6	52.8
家族や地域での人間関係のこと	%	13.8	6.4	10.2	32.4	16.7	17.6	15.7
職場や施設内での人間関係のこと	%	15.9	2.3	23.1	23.1	27.8	17.6	32.4
親亡き後のこと	%	29.5	7.2	63.9	39.8	55.6	5.9	38.9
緊急時や災害時のこと	%	32.9	34.8	26.9	39.8	22.2	64.7	24.1
その他	%	5.9	6.1	6.5	9.3	0.0	5.9	2.8
特に悩みや心配はない	%	15.1	20.5	13.0	4.6	5.6	5.9	17.6
無回答	%	2.9	4.2	1.9	1.9	0.0	5.9	1.9

(2) 地域包括支援センター、相談支援事業所の認知度・利用状況

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 12	障児	問 12
	問 12-1		問 12-1
	問 13		問 13
	問 13-1		問 13-1

① 地域包括支援センター（認知度） 【単数回答】

- 全体では、「いいえ」（51.7%）と回答した割合の方が高くなっています。
- 障がい種別でみると、身体障がい、精神障がい、難病では「はい」、知的障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、障がい児では「いいえ」と回答した割合の方が高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
はい	%	45.6	54.2	37.0	50.0	44.4	76.5	24.1
いいえ	%	51.7	42.4	61.1	46.3	55.6	17.6	75.0
無回答	%	2.7	3.4	1.9	3.7	0.0	5.9	0.9

② 地域包括支援センター（利用有無） 【単数回答】

※①で「はい」と回答した方のみ

- 全体では、「いいえ」（67.6%）と回答した割合の方が高くなっています。
- 障がい種別でみると、身体障がい、知的障がい、精神障がい、難病、障がい児では「いいえ」、発達障がい・高次脳機能障がいでは「はい」と回答した割合の方が高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	284	143	40	54	8	13	26
はい	%	29.6	34.3	22.5	22.2	87.5	38.5	7.7
いいえ	%	67.6	60.8	77.5	75.9	12.5	61.5	92.3
無回答	%	2.8	4.9	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0

③ 相談支援事業所（※）（認知度） 【単数回答】

※障害者生活支援センター、生活相談室とれいん、地域生活支援センター元町の家、相談支援センターつみき

- 全体では、「いいえ」（54.6%）と回答した割合の方が高くなっています。
- 障がい種別で見ると、身体障がい、障がい児では「いいえ」、知的障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、難病では「はい」と回答した割合の方が高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい・ 高次脳機能障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
はい	%	40.8	26.9	60.2	49.1	50.0	47.1	44.4
いいえ	%	54.6	66.3	37.0	47.2	44.4	41.2	54.6
無回答	%	4.7	6.8	2.8	3.7	5.6	11.8	0.9

④ 相談支援事業所（利用有無） 【単数回答】

※③で「はい」と回答した方のみ

- 全体では、「いいえ」（51.2%）と回答した割合の方が高くなっています。
- 障がい種別で見ると、身体障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がいでは「いいえ」、知的障がい、障がい児では「はい」と回答した割合の方が高くなっています。難病では「はい」と「いいえ」の割合は同じ割合となっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい・ 高次脳機能障がい	難病	障がい児
回答総数	件	254	71	65	53	9	8	48
はい	%	46.9	29.6	56.9	39.6	44.4	50.0	66.7
いいえ	%	51.2	69.0	38.5	58.5	55.6	50.0	33.3
無回答	%	2.0	1.4	4.6	1.9	0.0	0.0	0.0

(3) 悩みごとや心配ごとにおける家族や親戚、地域包括支援センター、相談支援事業所以外の相談相手 【複数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病

問 14

障児

問 14

- 全体では、「病院（医師、看護師、ケースワーカーなど）」（30.3%）と回答した割合が最も高く、「友人・知人」（24.6%）と続きます。また、21.2%が「誰もいない」と回答しています。
- 障がい種別でみると、身体障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、難病では「病院（医師、看護師、ケースワーカーなど）」、知的障がいでは「福祉サービス事業所等の職員」、障がい児では「学校の先生」と回答した割合が最も高くなっています。一方で、いずれの障がいにおいても、「誰もいない」と回答した割合が20%前後となっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
市役所・保健所の窓口	%	14.1	13.3	16.7	16.7	11.1	23.5	10.2
民生委員・児童委員	%	2.2	2.7	0.0	3.7	0.0	5.9	1.9
県の窓口(児童相談所、総合療育相談センターなど)	%	1.8	0.4	0.0	0.9	0.0	0.0	8.3
市社会福祉協議会	%	2.4	3.0	3.7	0.0	0.0	5.9	1.9
福祉サービス事業所等の職員	%	19.1	10.2	32.4	17.6	38.9	17.6	25.9
友人・知人	%	24.6	25.4	19.4	26.9	38.9	23.5	23.1
病院(医師、看護師、ケースワーカーなど)	%	30.3	29.5	16.7	43.5	55.6	52.9	25.0
学校の先生	%	11.2	1.5	4.6	2.8	5.6	0.0	52.8
その他	%	9.3	6.4	13.0	15.7	0.0	11.8	7.4
誰もいない	%	21.2	23.5	21.3	19.4	22.2	17.6	17.6
無回答	%	6.7	9.5	6.5	2.8	0.0	5.9	5.6

(4) 最も相談しやすい窓口 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病 問 15

障児

問 15

- 全体では、「専門的な人に相談できる」(34.3%)と回答した割合が最も高く、「直接会って相談できる」(26.3%)と続きます。
- 障がい種別でみると、身体障がいでは「直接会って相談できる」、知的障がいでは「24時間相談できる」、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、難病、障がい児では「専門的な人に相談できる」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
24時間相談できる	%	18.3	11.7	49.1	19.4	5.6	0.0	7.4
同性の職員に相談できる	%	2.6	2.7	2.8	2.8	5.6	0.0	1.9
リモートで相談できる	%	6.1	5.3	0.9	10.2	5.6	11.8	8.3
直接会って相談できる	%	26.3	34.1	16.7	22.2	27.8	29.4	20.4
専門的な人に相談できる	%	34.3	31.8	16.7	33.3	50.0	35.3	56.5
その他	%	6.1	5.3	7.4	9.3	5.6	17.6	1.9
無回答	%	6.3	9.1	6.5	2.8	0.0	5.9	3.7

4 障がい理解について

(1) ヘルプマークの認知度・利用状況

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 16	障児	問 16
	問 16-1		問 16-1

① ヘルプマーク（認知度） 【単数回答】

- 全体では、「はい」（54.4%）と回答した割合の方が高くなっています。
- 障がい種別で見ると、身体障がい、知的障がいでは「いいえ」、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、難病、障がい児では「はい」と回答した割合の方が高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
はい	%	54.4	47.7	44.4	65.7	61.1	64.7	66.7
いいえ	%	42.9	48.1	53.7	32.4	38.9	29.4	32.4
無回答	%	2.7	4.2	1.9	1.9	0.0	5.9	0.9

② ヘルプマーク（利用有無） 【単数回答】

※①で「はい」と回答した方のみ

- 全体では、「いいえ」（79.1%）と回答した割合の方が高くなっています。
- 障がい種別で見ると、いずれの障がいにおいても「いいえ」と回答した割合の方が高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	339	126	48	71	11	11	72
はい	%	20.1	19.0	20.8	19.7	18.2	27.3	20.8
いいえ	%	79.1	79.4	77.1	80.3	81.8	72.7	79.2
無回答	%	0.9	1.6	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0

(2) 障害者差別解消法施行以降、障がいに対する理解が進んだと思うか 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 17	障がい	問 17
-------------------	------	-----	------

- 全体では、「わからない」(53.8%)と回答した割合が最も高くなっています。「思わない」(30.3%)と回答した割合は、「思う」(11.2%)と回答した割合よりも高い傾向にあります。
- 障がい種別でみると、身体障がい、知的障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、難病、障がい児では「わからない」、精神障がいでは「思わない」と回答した割合が最も高くなっています。また、「思う」と「思わない」と回答した割合を比べた場合、いずれの障がいにおいても「思わない」が高い傾向にあります。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
思う	%	11.2	14.8	17.6	2.8	16.7	0.0	5.6
思わない	%	30.3	25.0	18.5	51.9	27.8	35.3	33.3
わからない	%	53.8	54.2	59.3	44.4	50.0	47.1	58.3
無回答	%	4.7	6.1	4.6	0.9	5.6	17.6	2.8

(3) 障がいを理由に他の人と違う扱いを受けたり、嫌な思いをしたりした経験 (1年以内)

【複数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病

問 18

障 児

問 18

- 全体では、「特になし」(70.1%)と回答した割合が最も高くなっています。嫌な思いをした経験がある方の回答としては、「ジロジロ見られたり、嫌な顔をされたりした」(14.8%)が最も高くなっています。
- 障がい種別でみると、いずれの障がいにおいても「特になし」と回答した割合が最も高くなっています。嫌な思いをした経験がある方の回答としては、身体障がいでは「ジロジロ見られたり、嫌な顔をされたりした」、「その他」、知的障がい、難病、障がい児では「ジロジロ見られたり、嫌な顔をされたりした」、精神障がいでは「その他」、発達障がい・高次脳機能障がいでは「心無い言葉でからかわれたり、笑われたりした」、「話しかけても無視をされた」、「その他」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい・ 高次脳機能障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
入店・入室を断られたり、追い出されたりした	%	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.9
申込や入会を断られた	%	0.6	0.4	0.0	1.9	0.0	0.0	0.9
ジロジロ見られたり、嫌な顔をされたりした	%	14.8	4.5	28.7	15.7	0.0	17.6	26.9
心無い言葉でからかわれたり、笑われたりした	%	6.9	1.1	9.3	16.7	5.6	0.0	10.2
怒鳴られたり、暴力的な言葉を使われたりした	%	4.7	1.5	6.5	12.0	0.0	0.0	4.6
話しかけても無視をされた	%	4.8	1.9	10.2	9.3	5.6	0.0	2.8
暴力を振るわれた	%	0.8	0.0	0.9	2.8	0.0	0.0	0.9
不審者と誤解され警察に通報された	%	0.8	0.4	2.8	0.9	0.0	0.0	0.0
その他	%	7.4	4.5	4.6	17.6	5.6	11.8	6.5
特になし	%	70.1	84.5	56.5	57.4	83.3	64.7	60.2
無回答	%	3.9	4.9	3.7	3.7	5.6	5.9	0.9

5 健康・医療について

(1) かかりつけ医の有無 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病 問 19

障児

問 19

- 全体では、「はい」（89.6%）と回答した割合の方が高くなっています。
- 障がい種別でみると、いずれの障がいにおいても「はい」と回答した割合の方が高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
はい	%	89.6	89.0	84.3	93.5	94.4	94.1	90.7
いいえ	%	8.8	8.3	13.9	5.6	5.6	5.9	9.3
無回答	%	1.6	2.7	1.9	0.9	0.0	0.0	0.0

(2) 健康の維持や医療に関することで困っていること 【複数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病

問 20

障児

問 20

- 全体では、「特にない」(58.9%)と回答した割合が最も高くなっています。困っていることがある方の回答としては、「かかりつけの医師が近くにいない」(13.5%)が最も高くなっています。
- 障がい種別でみると、いずれの障がいにおいても「特にない」と回答した割合が最も高くなっています。困っていることがある方の回答としては、身体障がい、難病、障がい児では「かかりつけの医師が近くにいない」、知的障がいでは「専門の医師がいない」、「病気や治療の説明がよく分からない」、精神障がいでは「障がいがあることで、他の病気の治療が受けにくい」、発達障がい・高次脳機能障がいでは「病気や治療の説明がよく分からない」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
医療機関が近くにない	%	7.9	6.8	8.3	10.2	0.0	11.8	8.3
かかりつけの医師が近くにいない	%	13.5	9.5	14.8	19.4	16.7	23.5	13.9
医療機関の設備や対応が障がいに配慮されていない	%	2.9	2.3	2.8	2.8	0.0	0.0	5.6
専門の医師がいない	%	6.9	4.5	15.7	5.6	5.6	17.6	3.7
病気や治療の説明がよく分からない	%	7.5	2.3	15.7	13.9	22.2	5.9	3.7
障がいがあることで、他の病気の治療が受けにくい	%	10.6	5.3	10.2	24.1	5.6	11.8	11.1
特にない	%	58.9	65.9	53.7	40.7	61.1	41.2	67.6
その他	%	8.3	5.7	9.3	13.0	0.0	23.5	8.3
無回答	%	5.5	9.1	2.8	2.8	11.1	5.9	0.9

(3) 医療的ケア等の必要の有無 【複数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 21	障児	問 21
-------------------	------	----	------

- 全体では、「医療的ケアは必要ない」(69.7%)と回答した割合が最も高くなっています。医療的ケア等が必要な方の回答としては、「その他」(5.5%)が最も高く、「血液透析」(4.7%)と続きます。
- 障がい種別でみると、いずれの障がいにおいても「医療的ケアは必要ない」と回答した割合が最も高くなっています。医療的ケア等が必要な方の回答としては、身体障がいでは「血液透析」、知的障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がいでは「その他」、難病では「経管栄養(経鼻、胃ろう、腸ろう)」、障がい児では「吸入・ネブライザー」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
医療的ケアは必要ない	%	69.7	59.8	72.2	73.1	88.9	41.2	88.9
吸引	%	1.4	0.8	0.9	0.9	0.0	11.8	2.8
吸入・ネブライザー	%	1.3	0.0	1.9	0.9	0.0	5.9	3.7
経管栄養(経鼻、胃ろう、腸ろう)	%	1.8	1.1	1.9	0.0	0.0	17.6	2.8
中心静脈栄養	%	0.3	0.4	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0
定期導尿	%	0.5	0.8	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0
在宅酸素療法	%	0.6	0.4	0.9	0.0	0.0	0.0	1.9
咽頭エアウェイ	%	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
気管切開部の管理(バンド交換等)	%	0.8	0.4	0.9	0.0	0.0	5.9	1.9
人工呼吸器の管理	%	0.6	0.4	0.0	0.0	0.0	11.8	0.9
腹膜透析	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
血液透析	%	4.7	10.2	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0
膀胱ろう	%	0.6	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
人工肛門	%	1.9	3.8	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0
血糖値測定とその後の処置(インスリン投与等)	%	1.9	3.0	0.0	2.8	0.0	5.9	0.0
その他	%	5.5	6.4	3.7	7.4	5.6	5.9	2.8
無回答	%	12.5	14.0	19.4	13.9	5.6	5.9	2.8

6 日常生活について

(1) 現在生活するうえで、家族からのサポートを受けているか 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病

問 22

障児

問 22

- 全体では、「はい」（67.3%）と回答した割合の方が高くなっています。
- 障がい種別でみると、いずれの障がいにおいても「はい」と回答した割合の方が高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
はい	%	67.3	56.1	71.3	66.7	94.4	70.6	86.1
いいえ	%	27.8	37.9	21.3	30.6	5.6	23.5	11.1
無回答	%	5.0	6.1	7.4	2.8	0.0	5.9	2.8

(2) 希望する将来の暮らし方

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 23	障児	問 23
	問 23-1		問 23-1

① 希望する将来の暮らし方 【単数回答】

- 全体では、「自宅で家族と暮らしたい」（55.1%）と回答した割合が最も高くなっています。
- 障がい種別でみると、いずれの障がいにおいても「自宅で家族と暮らしたい」と回答した割合が最も高くなっています。次に割合が高い回答としては、身体障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、難病、障がい児では「一人暮らしをしたい」、知的障がいでは「グループホーム（一軒家の中にあるそれぞれの部屋に住み、風呂・トイレを共同利用する共同生活タイプ）で暮らしたい」となっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい・高次脳機能障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
一人暮らしをしたい	%	14.4	6.8	12.0	27.8	33.3	29.4	16.7
グループホーム(一軒家の中にあるそれぞれの部屋に住み、風呂・トイレを共同利用する共同生活タイプ)で暮らしたい	%	5.8	1.5	16.7	6.5	0.0	0.0	6.5
グループホーム(マンションの1室の中にあるそれぞれの部屋に住み、風呂・トイレを共同利用する共同生活タイプ)で暮らしたい	%	2.6	3.4	1.9	0.9	0.0	0.0	3.7
グループホーム(アパートの1室に住む一人暮らしタイプ)で暮らしたい	%	3.0	2.3	3.7	2.8	11.1	0.0	3.7
自宅で家族と暮らしたい	%	55.1	66.3	45.4	43.5	50.0	47.1	50.9
施設で暮らしたい(現在の施設で暮らし続けたい)	%	4.2	5.3	9.3	1.9	0.0	0.0	0.0
その他	%	7.5	3.8	2.8	12.0	5.6	17.6	15.7
無回答	%	7.4	10.6	8.3	4.6	0.0	5.9	2.8

② どのような支援・サポートが必要か 【複数（3つまで）回答】

※①で「一人暮らし」・「グループホームで暮らしたい」と回答した方のみ

- 全体では、「生活費の支援があること」（48.4%）と回答した割合が最も高く、「世話をしてくれる家族や支援者（ホームヘルパーなど）がいること」（35.4%）と続きます。
- 障がい種別でみると、身体障がい、精神障がいでは「生活費の支援があること」、知的障がいでは「世話をしてくれる家族や支援者（ホームヘルパーなど）がいること」、発達障がい・高次脳機能障がいでは「生活費の支援があること」、「身近な相談相手がいること」、難病、障がい児では「働く場があること」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	161	37	37	41	8	5	33
地域住民の理解があること	%	24.2	16.2	35.1	17.1	25.0	20.0	30.3
働く場があること	%	34.8	13.5	27.0	36.6	37.5	60.0	60.6
生活費の支援があること	%	48.4	45.9	40.5	65.9	50.0	40.0	39.4
住居の支援があること	%	21.1	18.9	21.6	36.6	12.5	20.0	6.1
身近な相談相手がいること	%	33.5	27.0	37.8	31.7	50.0	0.0	39.4
世話をしてくれる家族や支援者(ホームヘルパーなど)がいること	%	35.4	40.5	51.4	29.3	0.0	20.0	30.3
必要な福祉サービスを受給できること	%	30.4	43.2	45.9	31.7	12.5	20.0	3.0
いつでも利用できる居場所があること	%	13.0	21.6	5.4	12.2	25.0	0.0	12.1
その他	%	3.1	0.0	2.7	4.9	0.0	0.0	6.1
無回答	%	5.6	5.4	8.1	2.4	0.0	20.0	6.1

(3) 日中活動系サービス事業所終了後、夕方の過ごし方
 (【障がい児調査票】学校等終了後、夕方の過ごし方)
 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 24	障 児	問 24
-------------------	------	-----	------

- 全体では、「家で過ごしている（自分で過ごすことができる）」（42.4%）と回答した割合が最も高く、「日中活動系サービス事業所を利用していない」（22.5%）と続きます。
- 障がい種別で見ると、身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がいでは「家で過ごしている（自分で過ごすことができる）」、難病では「家で過ごしている（自分で過ごすことができる）」、「日中活動系サービス事業所を利用していない」、障がい児では「放課後等デイサービスを利用している」と回答した割合が最も高くなっています。

① 日中活動系サービス事業所終了後、夕方の過ごし方 【単数回答】

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
日中一時支援を利用している	%	11.9	4.9	6.5	0.0	11.1	5.9	
放課後等デイサービスを利用している	%							47.2
家で過ごしている(日中一時支援／放課後等デイサービスを使いたいが使えない)	%	3.7	2.7	5.6	6.5	0.0	0.0	2.8
家で過ごしている(自分で過ごすことができる)	%	42.4	49.2	60.2	40.7	61.1	35.3	7.4
その他	%	8.7	2.7	5.6	4.6	5.6	5.9	31.5
日中活動系サービス事業所を利用していない	%	22.5	28.0	7.4	35.2	22.2	35.3	9.3
無回答	%	10.9	12.5	14.8	13.0	0.0	17.6	1.9

(4) 「自分が今後こうしたい、こうなりたい」という思いを伝えることができるか
(支援者のサポートを受けながらを含む)

【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病

問 25

障児

問 25

- 全体では、「できる」(54.3%)と回答した割合が最も高くなっています。
- 障がい種別でみると、「できない」と回答した割合は、知的障がい(31.5%)、障がい児(33.3%)で他よりも高い傾向がみられます。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
できる	%	54.3	72.3	33.3	49.1	55.6	64.7	34.3
できない	%	16.9	5.3	31.5	13.0	22.2	17.6	33.3
わからない	%	25.7	16.3	33.3	37.0	22.2	17.6	31.5
無回答	%	3.2	6.1	1.9	0.9	0.0	0.0	0.9

(5) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、困ったこと 【複数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病 問26

障児

問26

- 全体では、「感染することに対する不安」（43.5%）と回答した割合が最も高くなっています。
- 障がい種別で見ると、身体障がい、障がい児では「特にない」、知的障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、難病では「感染することに対する不安」と回答した割合が最も高くなっています。身体障がい、障がい児においても、次に割合の高い回答は「感染することに対する不安」となっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
マスクができない	%	6.7	0.8	10.2	1.9	0.0	5.9	24.1
食料品の買い出しができない	%	6.7	7.6	4.6	8.3	0.0	29.4	2.8
通勤・通学・通所ができない	%	7.1	1.9	9.3	9.3	16.7	11.8	13.0
コミュニケーションがとりにくい(マスクで口元が見えないなど)	%	12.2	8.3	9.3	17.6	22.2	29.4	14.8
モノや人に手で触れて確認することが難しくなった	%	5.1	3.0	2.8	13.0	5.6	5.9	4.6
人と会う機会がなくなりストレスがたまる	%	16.1	14.8	13.9	23.1	11.1	17.6	14.8
感染することに対する不安	%	43.5	38.3	53.7	53.7	44.4	76.5	30.6
後遺症がある	%	1.9	1.9	1.9	3.7	0.0	0.0	0.9
病院の予約や買い物のキャッシュレス決済などに対応ができない	%	7.4	5.7	11.1	11.1	5.6	5.9	4.6
その他	%	8.7	5.7	10.2	12.0	11.1	17.6	9.3
特にない	%	33.2	40.5	24.1	27.8	27.8	17.6	33.3
無回答	%	3.5	5.3	3.7	0.9	5.6	5.9	0.9

7 働くことについて

(1) 昼間の時間に過ごしている場所 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 27	障児	-
	問 27-1		
	問 27-2		

① 昼間の時間に過ごしている場所 【単数回答】

- 全体では、「働けない、働いていない」（49.9%）と回答した割合が最も高く、「その他の事業所で働いている・過ごしている」（14.6%）と続きます。
- 障がい種別でみると、身体障がい、精神障がい、難病では「働けない、働いていない」、知的障がい、発達障がい・高次脳機能障がいでは「その他の事業所で働いている・過ごしている」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類				
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病
回答総数	件	515	264	108	108	18	17
企業等で正社員として働いている(就労定着支援を含む)	%	11.8	11.0	18.5	7.4	16.7	5.9
アルバイト・パートで働いている	%	9.1	5.3	12.0	16.7	11.1	0.0
就労継続支援A型事業所で働いている	%	1.2	0.4	0.9	2.8	0.0	5.9
その他の事業所で働いている・過ごしている	%	14.6	2.7	45.4	10.2	33.3	11.8
学校に通っている	%	1.2	0.4	2.8	0.9	5.6	0.0
入所施設、病院で暮らしている	%	2.9	3.4	3.7	0.0	5.6	5.9
その他	%	4.7	6.4	1.9	3.7	5.6	0.0
働けない、働いていない	%	49.9	65.5	9.3	56.5	11.1	64.7
無回答	%	4.7	4.9	5.6	1.9	11.1	5.9

② どのような支援・サポートが必要か 【複数回答】

※①でいずれかの「働いている」を回答した方のみ

- 全体では、「自分にあつた仕事の分担」（51.3%）と回答した割合が最も高くなっています。
- 障がい種別でみると、身体障がい、知的障がいでは「自分にあつた仕事の分担」、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がいでは「相談できる人がいる」、難病では「自分にあつた仕事の分担」、「通勤や働く時間などの配慮」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類				
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病
回答総数	件	189	51	83	40	11	4
スケジュール管理	%	18.0	9.8	20.5	17.5	45.5	0.0
マニュアルがある	%	20.6	11.8	18.1	30.0	45.5	25.0
ジョブコーチがいる	%	13.8	5.9	15.7	15.0	36.4	0.0
相談できる人がいる	%	38.6	25.5	31.3	62.5	63.6	50.0
バリアフリーである	%	8.5	15.7	7.2	5.0	0.0	0.0
自分にあつた仕事の分担	%	51.3	47.1	49.4	57.5	54.5	75.0
通勤や働く時間などの配慮	%	30.2	33.3	21.7	37.5	36.4	75.0
通勤するための移動支援	%	10.6	11.8	10.8	12.5	0.0	0.0
その他	%	7.9	7.8	8.4	10.0	0.0	0.0
無回答	%	14.3	17.6	18.1	7.5	0.0	0.0

③ 働けない、働いていない理由 【複数回答】

※①で「学校に通っている」、「入所施設、病院で暮らしている」、「その他」、「働けない、働いていない」を回答した方のみ

- 全体では、「働かなくても生活できるから」（33.9%）と回答した割合が最も高く、「身体障がいにより働くことが困難なため」（31.5%）と続きます。
- 障がい種別でみると、身体障がいでは「働かなくても生活できるから」、知的障がいでは「身体障がいにより働くことが困難なため」、「対人関係に不安があるから」、精神障がいでは「精神的に働ける状態ではないため」、発達障がい・高次脳機能障がいでは「身体障がいにより働くことが困難なため」、「働かなくても生活できるから」、難病では「その他」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類				
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病
回答総数	件	257	173	10	61	2	11
精神的に働ける状態ではないため	%	21.8	3.5	20.0	77.0	0.0	9.1
身体障がいにより働くことが困難なため	%	31.5	37.0	40.0	11.5	50.0	45.5
対人関係に不安があるから	%	16.7	3.5	40.0	52.5	0.0	9.1
働かなくても生活できるから	%	33.9	41.0	20.0	14.8	50.0	36.4
その他	%	24.1	23.1	10.0	24.6	0.0	54.5
無回答	%	6.6	9.2	10.0	0.0	0.0	0.0

8 就学・就労について

(1) 障がい児の就学・就労について

身体・知的・精神・発達・高次・難病	-	障児	問 27
			問 27-1
			問 27-2
			問 27-3

① 通学・通所している場所 【複数回答】

- 全体では、「児童発達支援事業所、放課後等デイサービス」（48.1%）と回答した割合が最も高く、「小学校（通常学級）」（20.4%）と続きます。
- 年齢別でみると、「10歳未満」では「児童発達支援事業所、放課後等デイサービス」（68.1%）と回答した割合が最も高く、「幼稚園・保育園・認定こども園」（34.0%）と続きます。「10歳代」でも「児童発達支援事業所、放課後等デイサービス」（33.3%）が最も高く、「盲・ろう・養護学校高等部」（18.3%）と続きます。

	単位	全体	年齢	
			10歳未満	10歳代
回答総数	件	108	47	60
児童発達支援事業所、放課後等デイサービス	%	48.1	68.1	33.3
幼稚園・保育園・認定こども園	%	14.8	34.0	0.0
小学校(通常学級)	%	20.4	25.5	16.7
小学校(特別支援学級)	%	13.9	17.0	11.7
盲・ろう・養護学校小学部	%	11.1	8.5	13.3
中学校(通常学級)	%	1.9	0.0	3.3
中学校(特別支援学級)	%	10.2	0.0	16.7
盲・ろう・養護学校中学部	%	1.9	0.0	3.3
高等学校	%	5.6	0.0	10.0
盲・ろう・養護学校高等部	%	10.2	0.0	18.3
その他の学校・施設	%	1.9	0.0	3.3
働いている	%	0.0	0.0	0.0
通学(通園)・働いていない	%	0.9	0.0	1.7
無回答	%	0.0	0.0	0.0

② 入学にあたって困ったこと 【複数回答】

※①で「働いている」「通学（通園）・働いていない」以外を回答した方のみ

- 全体では、「特になし」（50.5%）と回答した割合が最も高くなっています。困ったことがあった方の回答としては、「通学の方法について不安があった」（17.8%）と回答した割合が最も高くなっています。
- 年齢別でみると、いずれの年齢層でも「特になし」と回答した割合が50%前後となっていますが、困ったことがあった方の回答としては、「10歳未満」では「学校についての情報が少なかった」（14.9%）、「10歳代」では「通学の方法について不安があった」（22.0%）と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	年齢	
			10歳未満	10歳代
回答総数	件	107	47	59
どこに相談すればよいかわからなかった	%	12.1	12.8	11.9
障がいのない同級生の様子がわからなかった	%	13.1	12.8	11.9
学校についての情報が少なかった	%	15.9	14.9	16.9
保護者の希望と就学指導における判断が合わなかった	%	7.5	8.5	6.8
通学の方法について不安があった	%	17.8	12.8	22.0
その他	%	4.7	4.3	5.1
特になし	%	50.5	53.2	49.2
無回答	%	0.9	0.0	1.7

③ 入学決定にあたって重視したこと 【複数（3つまで）回答】

※①で「働いている」「通学（通園）・働いていない」以外を回答した方のみ

- 全体では、「通学しやすいこと」（55.1%）と回答した割合が最も高くなっています。
- 年齢別でみると、「10歳未満」では「地域の学校で同年代の子どもと過ごせること」（51.1%）、「通学しやすいこと」（51.1%）、「10歳代」では「子どもの障がいや発達に応じた専門的な療育が受けられること」（57.6%）、「通学しやすいこと」（57.6%）と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	年齢	
			10歳未満	10歳代
回答総数	件	107	47	59
地域の学校で同年代の子どもと過ごせること	%	46.7	51.1	42.4
子どもの障がいや発達に応じた専門的な療育が受けられること	%	49.5	40.4	57.6
十分な施設・設備が整っていること	%	24.3	27.7	22.0
教員の人数がそろっていること	%	18.7	23.4	15.3
通学しやすいこと	%	55.1	51.1	57.6
その他	%	8.4	4.3	11.9
無回答	%	0.9	0.0	1.7

④ 学校生活のなかで困っていること 【複数回答】

※①で「働いている」「通学（通園）・働いていない」以外を回答した方のみ

- 全体では、「特に問題はない」（51.4%）と回答した割合が最も高くなっています。困っていることがある方の回答としては、「周囲の理解が得にくい」（18.7%）が最も高くなっています。
- 年齢別でみると、いずれの年齢層においても「特に問題はない」と回答した割合が最も高くなっていますが、困っていることがある方の回答としては、「10歳未満」では「周囲の理解が得にくい」（19.1%）、「10歳代」では「授業が難しい」（18.6%）、「周囲の理解が得にくい」（18.6%）と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	年齢	
			10歳未満	10歳代
回答総数	件	107	47	59
通学・通所の支援が不十分	%	8.4	4.3	11.9
授業が難しい	%	15.9	12.8	18.6
設備が使いづらい	%	0.9	0.0	1.7
介助が不十分	%	3.7	2.1	5.1
周囲の理解が得にくい	%	18.7	19.1	18.6
友だちができない	%	15.0	14.9	15.3
家族の負担が大きい	%	12.1	6.4	16.9
その他	%	8.4	6.4	10.2
特に問題はない	%	51.4	53.2	49.2
無回答	%	0.9	0.0	1.7

(2) 将来の生活について不安なこと 【複数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病

-

障児

問 28

- 全体では、「就職・進学できるか不安」（50.0%）、「親元を離れて自立できるか不安」（50.0%）と回答した割合が最も高くなっています。
- 年齢別で見ると、「10歳未満」では「就職・進学できるか不安」（44.7%）、「10歳代」では「親元を離れて自立できるか不安」（60.0%）と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	年齢	
			10歳未満	10歳代
回答総数	件	108	47	60
経済的自立ができるか不安	%	42.6	34.0	50.0
就職・進学できるか不安	%	50.0	44.7	55.0
働いても長続きするか不安	%	27.8	21.3	33.3
親元を離れて自立できるか不安	%	50.0	36.2	60.0
不安はない	%	15.7	19.1	13.3
その他	%	7.4	12.8	3.3
無回答	%	3.7	6.4	1.7

9 趣味や外出について

(1) 趣味や楽しみ 【複数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病

問 28

障児

問 29

- 全体では、「テレビ」(48.8%)と回答した割合が最も高く、「音楽」(42.5%)、「動画視聴(YouTube等)」(36.4%)と続きます。
- 障がい種別でみると、身体障がい、知的障がいでは「テレビ」、精神障がいでは「音楽」、発達障がい・高次脳機能障がいでは「音楽」、「動画視聴(YouTube等)」、難病では「音楽」、「テレビ」、障がい児では「動画視聴(YouTube等)」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
音楽	%	42.5	32.2	53.7	49.1	61.1	41.2	47.2
ゲーム	%	26.3	9.8	36.1	25.9	50.0	35.3	51.9
読書	%	24.4	23.1	22.2	34.3	22.2	23.5	20.4
スポーツ	%	14.3	13.6	17.6	12.0	22.2	5.9	14.8
旅行	%	23.3	26.1	30.6	18.5	27.8	11.8	14.8
電車	%	7.1	1.9	14.8	4.6	16.7	0.0	13.9
パソコン	%	13.8	14.0	11.1	15.7	38.9	11.8	10.2
料理	%	10.3	11.4	6.5	10.2	11.1	23.5	9.3
手芸・裁縫	%	6.1	7.2	2.8	8.3	5.6	17.6	2.8
テレビ	%	48.8	50.0	58.3	44.4	55.6	41.2	40.7
動画視聴(YouTube等)	%	36.4	17.0	37.0	38.0	61.1	17.6	80.6
SNS	%	9.5	6.8	12.0	13.0	16.7	17.6	7.4
園芸・ガーデニング	%	9.3	17.0	0.9	6.5	5.6	17.6	0.9
その他	%	18.3	14.8	20.4	25.9	27.8	11.8	16.7
無回答	%	5.9	9.5	3.7	3.7	5.6	11.8	0.9

(2) 普段の外出について

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 29	障児	問 30
	問 29-1		問 30-1

① 普段の外出の頻度 【単数回答】

- 全体では、「ほぼ毎日」（42.4%）と回答した割合が最も高くなっています。
- 障がい種別でみると、身体障がいでは「週に3～4回」、知的障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、障がい児では「ほぼ毎日」、難病では「ほぼ毎日」、「週に3～4回」、「週に1～2回」、「月に1～2回」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
ほぼ毎日	%	42.4	25.4	63.9	34.3	50.0	17.6	73.1
週に3～4回	%	21.8	25.8	21.3	22.2	22.2	17.6	13.0
週に1～2回	%	13.0	15.5	1.9	23.1	5.6	17.6	8.3
月に1～3回	%	7.4	10.2	2.8	7.4	11.1	17.6	2.8
年に数回	%	2.1	2.7	0.0	1.9	0.0	11.8	1.9
ほとんど外出しない	%	8.8	14.0	5.6	7.4	5.6	11.8	0.9
無回答	%	4.5	6.4	4.6	3.7	5.6	5.9	0.0

② 外出しない理由 【複数（3つまで）回答】

※①で「年に数回」「ほとんど外出しない」を回答した方のみ

- 全体では、「外出が一人ではできないため」（63.2%）と回答した割合が最も高くなっています。
- 障がい種別でみると、身体障がい、知的障がい、精神障がい、難病では「外出が一人ではできないため」、発達障がい・高次脳機能障がいでは「人とのコミュニケーションに不安があるため」、「外出が一人ではできないため」、「その他」、障がい児では「新型コロナウイルス感染症などの感染リスクが不安なため」、「外出が一人ではできないため」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	68	44	6	10	1	4	3
路上に障害物や階段・段差が多いため	%	7.4	9.1	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
外出先の建物の設備に不安があるため	%	2.9	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発作などがあり自分の心身の変化が不安なため	%	5.9	2.3	0.0	30.0	0.0	0.0	0.0
車などの移動手段がないため	%	11.8	11.4	0.0	10.0	0.0	25.0	33.3
バスやタクシーなど移動費用がかかるため	%	10.3	11.4	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
人とのコミュニケーションに不安があるため	%	7.4	0.0	16.7	30.0	100.0	0.0	0.0
新型コロナウイルス感染症などの感染リスクが不安なため	%	22.1	18.2	33.3	20.0	0.0	25.0	66.7
外出が一人ではできないため	%	63.2	63.6	66.7	50.0	100.0	75.0	66.7
体調が悪いため	%	22.1	22.7	16.7	30.0	0.0	25.0	0.0
その他	%	16.2	11.4	33.3	30.0	100.0	0.0	0.0
無回答	%	7.4	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(3) どのような趣味や楽しみで外出したいか 【複数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病

問 30

障児

問 31

- 全体では、「美味しいものを食べたい」（53.5%）と回答した割合が最も高く、「旅行に行きたい」（41.6%）と続きます。
- 障がい種別でみると、いずれの障がいにおいても「美味しいものを食べたい」と回答した割合が最も高くなっています。次に回答した割合が高いものとしては、身体障がい、知的障がい、難病、障がい児では「旅行に行きたい」、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がいでは「旅行に行きたい」、「友人・知人に会いたい」となっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
ライブ・スポーツ観戦等	%	17.2	12.9	26.9	21.3	22.2	17.6	13.0
スポーツをしたい	%	14.9	12.1	15.7	16.7	22.2	0.0	20.4
旅行に行きたい	%	41.6	40.9	41.7	38.9	55.6	47.1	42.6
勉強がしたい	%	8.7	7.6	3.7	12.0	22.2	17.6	9.3
趣味のコミュニティに参加したい	%	19.1	16.3	14.8	28.7	33.3	29.4	16.7
友人・知人に会いたい	%	39.8	39.4	37.0	38.9	55.6	41.2	41.7
美味しいものを食べたい	%	53.5	51.1	58.3	54.6	77.8	70.6	46.3
その他	%	16.1	13.3	17.6	21.3	16.7	11.8	16.7
無回答	%	10.3	13.6	11.1	5.6	5.6	11.8	6.5

10 障がいの認知・進路選択について

(1) 障がいに気付いた時期 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 31	障児	問 32
-------------------	------	----	------

- 全体では、「40～64歳」（20.5%）と回答した割合が最も高く、「0～2歳」（19.1%）と続きます。
- 障がい種別で見ると、身体障がい、難病では「40～64歳」、知的障がい、障がい児では「0～2歳」、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がいでは「18～39歳」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
出生前(妊娠中)	%	1.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7
0～2歳	%	19.1	5.3	38.9	0.0	5.6	5.9	56.5
3～4歳	%	8.0	1.5	12.0	2.8	0.0	5.9	26.9
5～6歳	%	2.7	1.5	6.5	1.9	0.0	0.0	3.7
小学生のとき	%	5.0	2.3	9.3	3.7	11.1	5.9	7.4
中学生のとき	%	4.3	0.8	12.0	8.3	11.1	5.9	0.0
高校生または高校生年代のとき	%	3.9	1.1	9.3	10.2	0.0	0.0	0.0
18～39歳	%	16.2	13.3	3.7	47.2	38.9	23.5	
40～64歳	%	20.5	35.6	2.8	20.4	22.2	29.4	
65歳以上	%	11.9	26.5	0.0	0.9	0.0	17.6	
無回答	%	7.4	11.4	5.6	4.6	11.1	5.9	1.9

(2) 障がいについて、最初にどこに相談したか 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病

問 32

障児

問 33

- 全体では、「病院」（55.9%）と回答した割合が最も高く、「家族・親戚」（16.9%）と続きます。
- 障がい種別でみると、いずれの障がいにおいても「病院」と回答した割合が最も高くなっています。次に回答した割合が高いものとしては、身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がいでは「家族・親戚」、難病では「家族・親戚」、「その他」、障がい児では「こどもセンター」となっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
家族・親戚	%	16.9	15.5	24.1	18.5	27.8	5.9	11.1
知人・友人	%	2.2	0.8	0.9	8.3	0.0	0.0	1.9
子育て支援センター	%	2.6	0.0	7.4	0.0	0.0	0.0	7.4
こどもセンター	%	4.3	0.4	4.6	0.0	0.0	0.0	19.4
保育所・幼稚園	%	0.6	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	1.9
小学校	%	1.0	0.4	2.8	0.0	0.0	0.0	1.9
中学校	%	0.6	0.0	2.8	0.9	0.0	0.0	0.0
高校	%	0.5	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0
病院	%	55.9	68.2	34.3	56.5	50.0	76.5	44.4
インターネットを通じて知り合った人	%	0.2	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0
相談サイトや掲示板	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	%	7.1	3.4	10.2	11.1	11.1	5.9	8.3
無回答	%	8.2	11.4	8.3	3.7	11.1	11.8	3.7

(3) 障がいのある子を育てる中で難しさ 【複数(3つまで) 回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病

-

障児

問 34

- 全体では、「コミュニケーション」(55.6%)と回答した割合が最も高く、「社会性(マナーや協調性など)」(53.7%)と続きます。
- 年齢別で見ると、「10歳未満」では「コミュニケーション」(63.8%)と回答した割合が最も高く、「社会性(マナーや協調性など)」(59.6%)と続きます。「10歳代」では「社会性(マナーや協調性など)」(50.0%)、「コミュニケーション」(50.0%)が最も高く、「危険認識」(35.0%)と続きます。

	単位	全体	年齢	
			10歳未満	10歳代
回答総数	件	108	47	60
社会性(マナーや協調性など)	%	53.7	59.6	50.0
コミュニケーション	%	55.6	63.8	50.0
危険認識	%	38.9	42.6	35.0
食育	%	10.2	14.9	6.7
金銭管理	%	8.3	2.1	11.7
時間管理	%	21.3	21.3	21.7
読み書き	%	16.7	12.8	20.0
性に関すること	%	6.5	0.0	11.7
周囲の理解	%	27.8	25.5	28.3
その他	%	9.3	6.4	11.7
無回答	%	1.9	0.0	3.3

(4) 放課後等デイサービスについて 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病	-	障児	問 35
			問 35-1

① 放課後等デイサービスの利用有無 【単数回答】

- 全体では、「ある」（64.8%）と回答した割合の方が高くなっています。
- 年齢別でみると、「ある」と回答した割合は、10歳未満では48.9%、10歳代では76.7%となっています。

	単位	全体	年齢	
			10歳未満	10歳代
回答総数	件	108	47	60
ある	%	64.8	48.9	76.7
ない	%	33.3	51.1	20.0
無回答	%	1.9	0.0	3.3

② 放課後等デイサービスに期待すること 【単数回答】

※①で「ある」を回答した方のみ

- 全体では、「コミュニケーション能力の向上」（38.6%）と回答した割合が最も高く、「社会性を身につけてほしい」（30.0%）と続きます。
- 年齢別でみると、「10歳未満」では「コミュニケーション能力の向上」（52.2%）と回答した割合が最も高く、「社会性を身につけてほしい」（30.4%）と続きます。「10歳代」では、「コミュニケーション能力の向上」（30.4%）、「社会性を身につけてほしい」（30.4%）が最も高く、「学童保育の代わり」（13.0%）と続きます。

	単位	全体	年齢	
			10歳未満	10歳代
回答総数	件	70	23	46
学校の勉強をみてほしい	%	8.6	4.3	10.9
コミュニケーション能力の向上	%	38.6	52.2	30.4
レスパイトケア(介助者の休息への支援)	%	8.6	4.3	10.9
学童保育の代わり	%	8.6	0.0	13.0
運動能力の向上	%	2.9	4.3	2.2
社会性を身につけてほしい	%	30.0	30.4	30.4
その他	%	2.9	4.3	2.2
無回答	%	0.0	0.0	0.0

(5) 18歳になるまでの就学等について 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 33	障児	-
	問 33-1		

① 18歳になるまで昼間過ごしていた主な場所 【単数回答】

- 全体では、「高校（普通級）」（51.3%）と回答した割合が最も高くなっています。
- 障がい種別で見ると、身体障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、難病では「高校（普通級）」、知的障がいでは「特別支援学校（盲学校、聾学校、養護学校等）」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類				
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病
回答総数	件	515	264	108	108	18	17
高校(普通級)	%	51.3	60.2	12.0	65.7	50.0	70.6
高校(通信制)	%	2.7	0.0	6.5	6.5	0.0	0.0
高校(インクルーシブ)	%	1.2	0.0	4.6	0.0	5.6	0.0
高校(定時制)	%	2.1	2.3	0.9	1.9	5.6	5.9
特別支援学校(盲学校、聾学校、養護学校等)	%	14.8	3.0	58.3	1.9	11.1	5.9
フリースクール	%	0.2	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0
その他	%	6.4	6.4	2.8	10.2	11.1	0.0
自宅	%	7.6	7.6	7.4	7.4	5.6	11.8
無回答	%	13.8	20.5	6.5	6.5	11.1	5.9

② 通学・通所の手段 【複数回答】

※①で「自宅」以外を回答した方のみ

- 全体では、「ひとりで自力（公共交通機関、徒歩、車いす）」（79.0%）と回答した割合が高くなっています。
- 障がい種別でみると、いずれの障がいにおいても「ひとりで自力（公共交通機関、徒歩、車いす）」と回答した割合が最も高くなっています。また、知的障がいでは、他の障がいと比べて「家族の送迎」（28.0%）が高い割合となっています。

	単位	全体	調査票種類				
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病
回答総数	件	405	190	93	93	15	14
ひとりで自力(公共交通機関、徒歩、車いす)	%	79.0	83.7	60.2	88.2	73.3	85.7
家族・友人等と自力(公共交通機関、徒歩、車いす)	%	6.7	3.2	11.8	9.7	6.7	0.0
家族の送迎	%	10.4	4.2	28.0	8.6	0.0	0.0
学校等の送迎	%	4.9	2.1	17.2	0.0	0.0	0.0
ボランティアによる送迎	%	0.2	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0
その他	%	4.0	2.6	5.4	5.4	0.0	7.1
無回答	%	5.7	6.8	2.2	4.3	20.0	7.1

(6) 18歳になって最初の進路 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病

問 34

障児

-

- 全体では、「進学」（35.7%）と回答した割合が最も高く、「就労（パート・アルバイトを含む）」（24.5%）と続きます。
- 障がい種別でみると、身体障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、難病では「進学」、知的障がいでは「その他の障害福祉サービス事業所等（生活介護、自立訓練、地域活動支援センター等）」と回答した割合が最も高くなっています。また、身体障がい、精神障がい、難病においては「就労（パート・アルバイトを含む）」が、次に割合の高い回答となっています。

	単位	全体	調査票種類				
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病
回答総数	件	515	264	108	108	18	17
進学	%	35.7	35.2	15.7	53.7	44.4	47.1
就労(パート・アルバイトを含む)	%	24.5	28.4	14.8	26.9	11.1	23.5
就労系の障害福祉サービス事業所(就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型)	%	5.0	0.0	23.1	0.0	5.6	0.0
その他の障害福祉サービス事業所等(生活介護、自立訓練、地域活動支援センター等)	%	7.8	3.0	27.8	0.0	5.6	5.9
その他	%	9.3	8.0	11.1	9.3	16.7	11.8
無回答	%	17.7	25.4	7.4	10.2	16.7	11.8

(7) 進路についての相談先 【複数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 35	障児	-
-------------------	------	----	---

- 全体では、「家族・親戚」（61.0%）と回答した割合が最も高く、「学校」（23.7%）と続きます。
- 障がい種別でみると、いずれの障がいにおいても「家族・親戚」と回答した割合が最も高くなっています。次に割合の高い回答としては、身体障がい、難病では「特に相談した人はいない」、知的障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がいでは「学校」となっています。

	単位	全体	調査票種類				
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病
回答総数	件	515	264	108	108	18	17
家族・親戚	%	61.0	53.0	82.4	59.3	77.8	41.2
知人・友人	%	8.3	5.3	7.4	13.0	27.8	11.8
学校	%	23.7	13.6	34.3	37.0	33.3	17.6
病院	%	4.1	2.3	7.4	3.7	11.1	5.9
障害福祉サービス事業所	%	4.1	1.1	16.7	0.0	0.0	0.0
相談支援事業所	%	4.3	1.1	17.6	0.0	0.0	0.0
インターネットを通じて知り合った人	%	0.2	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0
相談サイトや掲示板	%	0.2	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0
その他	%	3.5	1.9	2.8	7.4	11.1	0.0
特に相談した人はいない	%	15.5	19.7	1.9	19.4	5.6	23.5
無回答	%	14.0	18.9	7.4	8.3	5.6	23.5

(8) 進路選択と必要なサポートについて 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 36	障児	-
	問 36-1		

① 希望通りの進路へ進めたか 【単数回答】

- 全体では、「はい」(63.3%)と回答した割合の方が高くなっています。
- 障がい種別でみると、いずれの障がいにおいても「はい」と回答した割合の方が高くなっていますが、精神障がい(48.1%)、難病(47.1%)においては、他の障がいと比べて低い傾向がみられます。

	単位	全体	調査票種類				
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病
回答総数	件	515	264	108	108	18	17
はい	%	63.3	64.0	78.7	48.1	66.7	47.1
いいえ	%	18.1	12.5	9.3	38.9	22.2	23.5
無回答	%	18.6	23.5	12.0	13.0	11.1	29.4

② どのようなサポート等があれば、希望する進路に進めたと思うか 【複数回答】

※①で「いいえ」を回答した方のみ

- 全体では、「その他」（48.4%）と回答した割合が最も高く、「専門的な技術を身に付ける機会の提供」（22.6%）と続きます。
- 障がい種別でみると、身体障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がいでは「その他」、知的障がいでは「障がい者雇用を行う企業等の紹介」、「その他」、難病では「障がい者雇用を行う企業等の紹介」、「専門的な技術を身に付ける機会の提供」、「その他」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類				
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病
回答総数	件	93	33	10	42	4	4
障がい者雇用を行う企業等の紹介	%	16.1	12.1	40.0	11.9	25.0	25.0
専門的な技術を身に付ける機会の提供	%	22.6	30.3	0.0	21.4	25.0	25.0
障がい者雇用に特化した相談先	%	14.0	12.1	10.0	16.7	25.0	0.0
その他	%	48.4	33.3	40.0	61.9	75.0	25.0
無回答	%	20.4	30.3	20.0	11.9	0.0	50.0

(9) 専門的なケア・相談を受けることができるか 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問37	障児	-
-------------------	-----	----	---

- 全体では、「受けている」（40.4%）と回答した割合が最も高くなっています。
- 障がい種別でみると、身体障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がいでは「受けている」、知的障がいでは「専門的ではないが受けている」、難病では「受けたいが、受けることができない（専門家がいらない等）」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類				
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病
回答総数	件	515	264	108	108	18	17
受けている	%	40.4	35.6	33.3	56.5	66.7	29.4
専門的ではないが受けている	%	14.6	8.7	38.9	6.5	11.1	5.9
受けたいが、受けることができない(専門家がいらない等)	%	11.5	8.0	7.4	20.4	11.1	35.3
受ける必要がない	%	18.4	28.8	10.2	5.6	5.6	5.9
無回答	%	15.1	18.9	10.2	11.1	5.6	23.5

(10) 意思疎通の方法 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 38	障児	-
-------------------	------	----	---

- 全体では、「声」（74.6%）と回答した割合が最も高くなっています。
- 障がい種別でみると、いずれの障がいにおいても「声」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類				
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病
回答総数	件	515	264	108	108	18	17
声	%	74.6	72.0	73.1	79.6	88.9	76.5
手話	%	0.6	0.8	0.0	0.9	0.0	0.0
筆談	%	0.4	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0
重度障害者用意思伝達装置(補装具)	%	0.2	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0
タブレット・スマートフォン	%	3.7	2.3	3.7	8.3	0.0	0.0
意思疎通が難しい	%	4.7	2.7	11.1	2.8	5.6	5.9
その他	%	3.1	4.5	2.8	0.9	0.0	0.0
無回答	%	12.8	17.0	8.3	7.4	5.6	17.6

11 安全・安心な暮らしについて

(1) バリアフリー化を進めてほしいと考えるもの 【複数（3つまで）回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病

問 39

障児

問 36

- 全体では、「道路（歩道や交差点など）」（34.0%）と回答した割合が最も高く、「電車・バス・タクシー等の乗り物」（32.9%）と続きます。
- 障がい種別でみると、身体障がいでは「道路（歩道や交差点など）」、知的障がい、障がい児では「各施設職員・市民の対応（心のバリアフリー）」、精神障がいでは「駅・バス停留所」、発達障がい・高次脳機能障がいでは「電車・バス・タクシー等の乗り物」、難病では「駅・バス停留所」、「道路（歩道や交差点など）」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
駅・バス停留所	%	32.1	37.5	20.4	36.1	33.3	52.9	23.1
電車・バス・タクシー等の乗り物	%	32.9	36.0	28.7	27.8	61.1	29.4	30.6
道路(歩道や交差点など)	%	34.0	37.9	19.4	29.6	38.9	52.9	39.8
公共施設や学校	%	17.7	7.6	28.7	13.0	11.1	17.6	37.0
スーパー、コンビニなど	%	15.7	14.0	19.4	14.8	22.2	29.4	13.9
病院	%	16.4	15.2	25.0	20.4	5.6	17.6	8.3
公園	%	4.5	2.7	6.5	1.9	0.0	0.0	11.1
駐車場	%	5.1	6.4	1.9	1.9	0.0	5.9	9.3
各施設職員・市民の対応(心のバリアフリー)	%	23.6	8.3	30.6	32.4	50.0	11.8	42.6
その他	%	5.3	4.5	9.3	6.5	0.0	11.8	1.9
無回答	%	15.7	21.6	15.7	14.8	11.1	5.9	4.6

(2) 災害時・緊急時に手助けしてくれる人 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 40	障児	問 37
	問 40-1		問 37-1

① 災害時・緊急時に手助けしてくれる人の有無 【単数回答】

- 全体では、「いる」（82.8%）と回答した割合の方が高くなっています。
- 障がい種別でみると、いずれの障がいにおいても「いる」と回答した割合の方が高くなっています。また、精神障がいでは、他の障がいと比べて「いる」と回答した割合が72.2%と低くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
いる	%	82.8	80.7	90.7	72.2	88.9	82.4	89.8
いない	%	12.7	14.4	4.6	22.2	11.1	5.9	8.3
無回答	%	4.5	4.9	4.6	5.6	0.0	11.8	1.9

② 災害時・緊急時に手助けしてくれる人 【複数回答】

※①で「いる」を回答した方のみ

- 全体では、「同居している家族」（84.9%）と回答した割合が最も高くなっています。
- 障がい種別でみると、いずれの障がいにおいても「同居している家族」と回答した割合が最も高くなっています。次に割合が高い回答としては、身体障がい、精神障がい、障がい児では「離れて生活する家族・親族」、知的障がい、発達障がい・高次脳機能障がいでは「福祉サービス事業所の職員（ホームヘルパーなど）」、難病では「離れて生活する家族・親族」、「近所の人・知人・友人」となっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	516	213	98	78	16	14	97
同居している家族	%	84.9	85.0	84.7	78.2	87.5	85.7	89.7
離れて生活する家族・親族	%	17.4	16.9	11.2	24.4	18.8	21.4	18.6
福祉サービス事業所の職員 (ホームヘルパーなど)	%	10.3	6.6	23.5	7.7	25.0	7.1	5.2
ボランティア	%	0.2	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0
近所の人・知人・友人	%	12.6	13.1	7.1	12.8	12.5	21.4	15.5
その他	%	1.7	2.3	2.0	2.6	0.0	0.0	0.0
無回答	%	0.4	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(3) 避難行動要支援者支援制度の認知度 【単数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病

問 41

障児

問 38

- 全体では、「知らなかった」（49.6％）と回答した割合が最も高くなっています。
- 障がい種別でみると、「知らなかった」と回答した割合は、身体障がい、知的障がい、難病では50％未満となっていますが、精神障がい（64.8％）、発達障がい・高次脳機能障がい（77.8％）、障がい児（54.6％）で高い傾向がみられます。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
知っている	%	29.4	34.5	31.5	16.7	0.0	41.2	30.6
名前は聞いたことがあるが制度内容は知らなかった	%	14.4	17.8	11.1	12.0	16.7	17.6	11.1
知らなかった	%	49.6	40.9	49.1	64.8	77.8	29.4	54.6
無回答	%	6.6	6.8	8.3	6.5	5.6	11.8	3.7

(4) 災害時や緊急時における市（地域）の情報の取得方法 【複数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病

問 42

障児

問 39

- 全体では、「防災無線」（53.8%）と回答した割合が最も高く、「携帯電話（スマートフォン、タブレットを含む）」（50.6%）、テレビ（48.5%）と続きます。
- 障がい種別でみると、身体障がい、難病では「防災無線」、知的障がいでは「テレビ」、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、障がい児では「携帯電話（スマートフォン、タブレットを含む）」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
防災無線	%	53.8	56.4	53.7	46.3	44.4	88.2	50.9
ちがさきメール配信サービス	%	15.6	13.3	12.0	8.3	0.0	11.8	35.2
テレビ	%	48.5	49.6	57.4	47.2	50.0	29.4	40.7
携帯電話(スマートフォン、タブレットを含む)	%	50.6	42.0	44.4	53.7	66.7	70.6	68.5
ラジオ	%	12.4	12.1	13.0	13.0	22.2	17.6	9.3
パソコン	%	7.2	6.4	6.5	11.1	11.1	0.0	6.5
その他	%	3.2	1.5	9.3	3.7	0.0	0.0	1.9
特になし	%	6.9	9.1	7.4	4.6	5.6	0.0	4.6
無回答	%	4.5	6.1	4.6	3.7	0.0	0.0	2.8

(5) 日頃から災害の備えの有無 【複数回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病

問 43

障児

問 40

- 全体では、備えがある方の回答としては、「非常用持ち出し袋を用意している」（38.0%）と回答した割合が最も高く、「家具に転倒防止器具をつけている」（21.3%）と続きます。一方、36.0%の方が「特に何もしていない」と回答しています。
- 障がい種別でみると、身体障がい、難病、障がい児では「非常用持ち出し袋を用意している」と回答した割合が最も高くなっています。一方、知的障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がいでは「特に何もしていない」が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
非常用持ち出し袋を用意している	%	38.0	41.7	20.4	34.3	16.7	47.1	52.8
家具に転倒防止器具をつけている	%	21.3	24.6	16.7	18.5	11.1	29.4	21.3
避難所への経路を確認している	%	16.5	17.4	19.4	15.7	5.6	5.9	15.7
家族と待ち合わせ場所などを相談している	%	18.8	14.8	21.3	24.1	5.6	5.9	25.0
地区の防災訓練に参加している	%	7.2	9.5	6.5	4.6	0.0	5.9	6.5
特に何もしていない	%	36.0	34.8	42.6	38.9	55.6	23.5	27.8
その他	%	2.7	2.7	1.9	4.6	0.0	5.9	1.9
無回答	%	3.4	4.2	3.7	1.9	5.6	5.9	1.9

(6) 避難所を利用する際に必要な設備や仕組み 【複数(3つまで)回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病 問44

障児

問41

- 全体では、「物資(水や食料など)や器材の備蓄」(65.7%)と回答した割合が最も高く、「みんなのトイレやスロープ・手すりなどのバリアフリー化」(47.4%)と続きます。
- 障がい種別でみると、身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がいでは「物資(水や食料など)や器材の備蓄」、難病では「みんなのトイレやスロープ・手すりなどのバリアフリー化」、障がい児では「要配慮者の特性を踏まえて、避難生活に必要な空間(障がい者がパニックになったとき落ち着ける個室など)」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
みんなのトイレやスロープ・手すりなどのバリアフリー化	%	47.4	59.1	34.3	32.4	55.6	64.7	42.6
ラジオ・文字放送対応テレビ・筆談用具・ファックスなどがあること	%	16.7	18.6	16.7	17.6	33.3	11.8	9.3
ラジオ・文字放送対応テレビ・筆談用具・ファックスなどがあること	%	26.8	39.0	7.4	19.4	27.8	47.1	20.4
物資(水や食料など)や器材の備蓄	%	65.7	64.0	73.1	66.7	72.2	41.2	63.9
要配慮者の特性を踏まえて、避難生活に必要な空間(障がい者がパニックになったとき落ち着ける個室など)	%	41.3	24.2	44.4	56.5	33.3	41.2	65.7
福祉関係職員(生活相談員やヘルパー等)がいること	%	34.5	26.5	41.7	37.0	55.6	47.1	38.9
その他	%	5.6	2.7	5.6	9.3	0.0	23.5	7.4
無回答	%	2.9	4.2	2.8	1.9	0.0	0.0	1.9

(7) 障がい福祉をより良くするために、必要なこと 【複数(3つまで)回答】

身体・知的・精神・発達・高次・難病

問45

障児

問42

- 全体では、「相談しやすさ」(48.8%)と回答した割合が最も高く、「情報の取得しやすさ、わかりやすさ」(48.3%)と続きます。
- 障がい種別で見ると、身体障がい、知的障がい、障がい児では「情報の取得しやすさ、わかりやすさ」、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がいでは「相談しやすさ」、難病では「情報の取得しやすさ、わかりやすさ」、「日常生活を支援する障害福祉サービス等の充実」と回答した割合が最も高くなっています。

	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・ 発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
情報の取得しやすさ、わかりやすさ	%	48.3	49.6	40.7	45.4	50.0	64.7	52.8
相談しやすさ	%	48.8	46.2	39.8	60.2	61.1	58.8	49.1
健康を支える仕組み	%	13.3	19.7	10.2	13.9	11.1	0.0	2.8
日常生活を支援する障害福祉サービス等の充実	%	33.7	34.8	27.8	28.7	22.2	64.7	38.9
働きやすい環境づくり	%	16.5	9.1	20.4	19.4	44.4	23.5	22.2
障がいに関する市民意識の向上	%	22.6	13.6	38.0	24.1	22.2	5.9	30.6
誰でも交流できる環境づくり	%	9.5	10.2	11.1	9.3	5.6	0.0	8.3
子どものすこやかな成長支援	%	9.3	5.3	1.9	7.4	0.0	0.0	31.5
安全・安心に暮らせるまちづくり	%	26.3	36.7	30.6	13.0	11.1	17.6	13.9
自分らしく生きるためのサポート	%	17.2	10.2	25.0	24.1	16.7	5.9	21.3
その他	%	2.6	1.5	2.8	2.8	5.6	5.9	3.7
無回答	%	3.9	6.1	2.8	2.8	0.0	5.9	0.9

(8) 市の福祉施策についての意見・要望 【自由記述】

身体・知的・精神・発達・高次・難病

問 46

障児

問 43

- 市の福祉施策についての意見・要望として170人から記入がありました。
- 記入のあった内容について、「第6期茅ヶ崎市障がい者保健福祉計画」（以下、現行計画）で推進する6つの基本方針と12の施策の方向性ごとに分類すると、「障がい者の生活基盤の強化」、「身近な地域の支援体制の強化」に関する内容が多くありました。なお、同じ方から複数意見があった場合は、それぞれカウントしています。

基本方針	件数	方向性	意見一例(要旨)
1 身近な地域の支援体制の強化	51	知る (20件)	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の障がいに配慮した方法で情報を発信してほしい。 ○福祉施策に関する情報発信について、機会や方法の充実。(説明会、SNSの活用等。) ○制度の変化や手帳等の更新があった場合は、事前に知らせてほしい。
		相談する (17件)	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の障がいや周りの環境に合わせた相談支援をしてほしい。 ○相談できる窓口がわからない。(以前、断られた経験がある。) ○課や担当が変わるごとに状況説明をすることが大変なため、関係機関で情報を共有してほしい。保育コンシェルジュのような担当者がいるといいと思う。 ○相談する相手がない。
		理解を深める (12件)	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の障がいごとの特徴(行動・言動)について理解・対応できる人が増えてほしい。 ○見た目にはわからない障がいに対する理解も広まってほしい。
		育てる (2件)	<ul style="list-style-type: none"> ○スタッフの人手不足で利用することのできない施設がある。土、日曜日の利用や日中一時支援等、短期入所が可能な施設を増やしてほしい。 ○民生委員の仕事・役割等を見直すことが必要ではないか。
2 障がい者の健康を支える体制の強化	12	健やかに生きる	<ul style="list-style-type: none"> ○専門の医療機関を増やしてほしい。 ○医療費等に対する補助を拡大してほしい。

基本方針	件数	方向性	意見一例(要旨)
3 障がい者の生活基盤の強化	60	住まう (19件)	<ul style="list-style-type: none"> ○グループホーム、ショートステイを増やしてほしい。 ○グループホーム等について、説明会や体験等を充実してほしい。 ○希望通りのグループホームに入所できるようにしてほしい。(見学時の状況で断られてしまったことがある。) ○親亡き後、安心して生活できるようなフォロー体制を強化してほしい。 ○障がいのある親とともに生活できる施設があると安心である。(入居者の親を雇用する等、家族協力型の施設があるといいと思う。)
		生活する・利用する (37件)	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の障がいに配慮した手続き等の方法を充実してほしい。(アプリへの集約化や視覚・聴覚障がい者におけるスマートフォン・タブレットの活用等。) ○言語や手の動きに障がいがあるとデジタル化に対応することができない。 ○マイナポイント関連や茅ヶ崎市キャッシュレス決済ポイント還元事業等は敷居が高い。デジタル推進委員等にサポートを依頼するような取組みを市が率先してやるべきではないか。
		人権を守る (4件)	<ul style="list-style-type: none"> ○障がい者に寄り添った対応をしてほしい。 ○未成年に手紙を送る際は、親の名前で送る等の配慮がほしい。(本人には障がいがあるかもしれないことを告知していない。)
4 社会参加と自己実現の支援	12	働く (6件)	<ul style="list-style-type: none"> ○障がいの認定によって、働きたくても受け入れてもらえない場合がある。個々の状態に応じた対応をしてもらいたい。 ○高齢な両親の面倒を見ながら働くのが困難なため、働きやすい環境が必要。
		社会参加・楽しむ (6件)	<ul style="list-style-type: none"> ○「認知症カフェ」のように「障がい者カフェ」のような居場所があるといいと思う。 ○就労後や休日などに、1人で通える場所や送迎のある場所でダンス、軽い運動、習字など習い事のようなものができるとよいと思う。

基本方針	件数	方向性	意見一例(要旨)
5 障がいのある子どもの成長支援	22	学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ○障がいを理由に、市内の幼稚園入園を断わられてしまい、市外の幼稚園へ入園させた経験がある。市のサポートで希望する園に入園できるような手段があると思う。 ○学区内の学校に支援級がないため、学区外に通学しなければならない。すべての小・中学校に通級指導教室や支援級を設けてほしい。 ○市と県で連携し、高校まで一貫した支援体制をとってほしい。 ○放課後等デイサービスについて、受給者証の更新を簡素化してほしい。出欠・下校時間等については、学校と各放課後等デイサービスで共有してほしい。 ○障がいのある子どもの特性を一番に考えてほしい。
6 安全・安心のまちづくりの推進	18	安心して暮らす	<ul style="list-style-type: none"> ○公共施設のバリアフリー化。(階段の手すり、エスカレーターの手すり、多機能トイレ等。) ○道路の整備。(歩道の整備、車イスに対応した歩道、音響信号の設置等。) ○障がい者に配慮した避難所の整備。(ベッド、薬の備蓄、優先的に入れる空間の設置等。) ○移動支援の充実。(道路規制への配慮、公共交通利用の際の助成等。)
その他	41	感謝のメッセージ、不安や気持ち、アンケートに関する事等	<ul style="list-style-type: none"> ○市主体で機会をつくっていただけるなら、障がい当事者の立場からできる支援活動、助け合いへの参加や、発信(講演会等)に是非協力していきたいと思う。 ○アンケート用紙を小さくするか、又は返信用封筒のサイズを大きく変更して欲しいです。 ○障がい個々に対応した質問やサポートする人(家族も含む)の立場の質問も必要でないか。

第3章 調査結果のまとめ

以下、現行計画で推進する6つの基本方針と12の施策の方向性に沿って、アンケート結果の概要をまとめています。

1 身近な地域の支援体制の強化 【基本方針1】

(1) 情報の取得について

① 福祉サービス等の情報の取得元としては、「家族や友人」、「広報ちがさき」の割合が高い

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問7	障児	問7
	問8		問8

- 福祉サービス等の情報の取得元としては、全体では「家族や友人」（27.9%）、「広報ちがさき」（26.6%）、「相談支援事業所」（18.5%）、「障害福祉サービス事業所等」（18.0%）の割合が高い一方、「特になし」の割合が23.6%となっています。また、「ホームページ」の割合は14.6%、SNS（Twitter/Facebook/LINE）の割合はいずれも5%未満となっており、家族・友人や事業所等から直接取得している以外の手段としては、「広報ちがさき」から情報を取得している方が多いことがうかがわれます。
- 障害福祉サービス等の利用・未利用別にみると、利用者では「家族や友人」と回答した割合が最も高く、「障害福祉サービス事業所等」、「相談支援事業所」と続く一方で、未利用者では「広報ちがさき」が最も高く、「特になし」と続きます。障害福祉サービス等の未利用者に向けた「広報ちがさき」以外の発信方法についても強化していく必要があると考えられます。

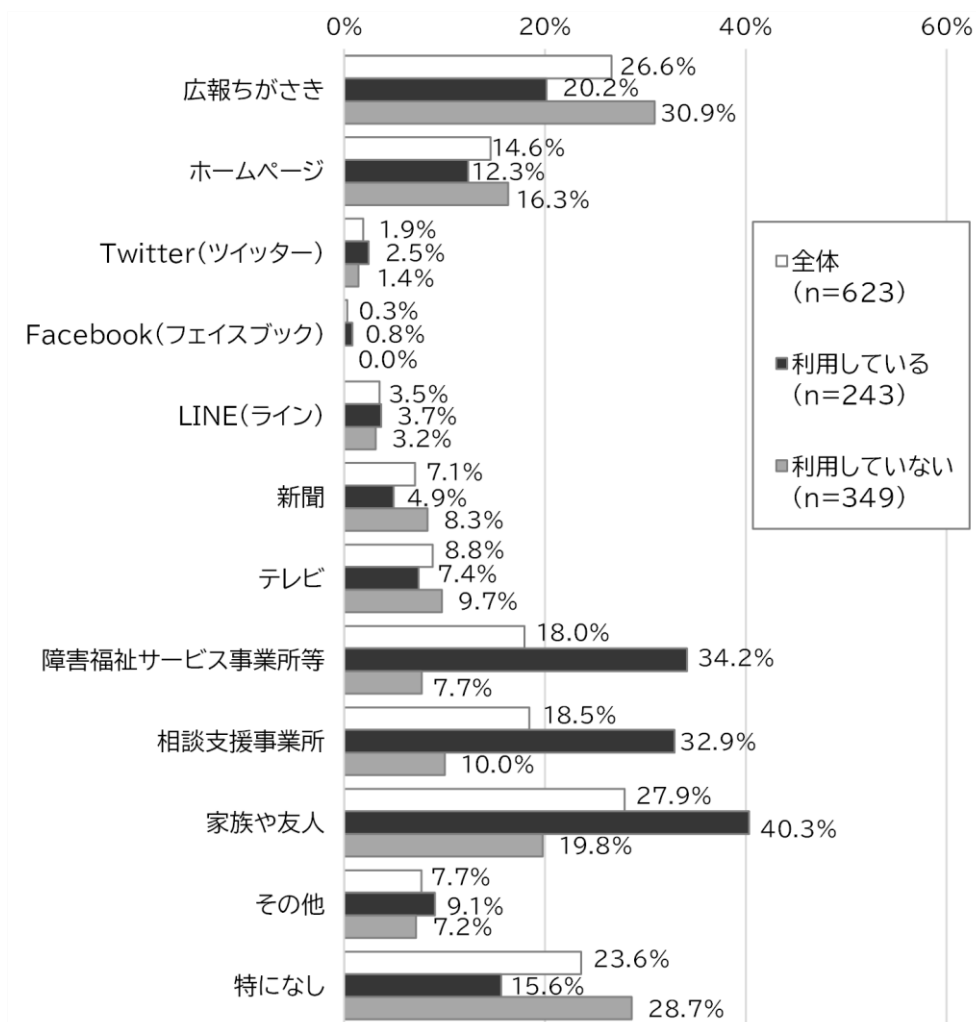
② スマートフォンやタブレットを持ち、且つそれらを使って情報を取得している割合は34.8%

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問9	障児	問9
	問9-1		問9-1

- スマートフォンやタブレットを持っている割合は、全体の約7割を占めるものの、それを使って情報を取得している割合は34.8%となっています。
- 障がい種別にスマートフォンやタブレットを持ち、且つそれらを使って情報を取得している割合をみると、身体障がいの37.1%、知的障がいの26.9%、精神障がいの47.2%、発達障がい・高次脳機能障がいの44.4%、難病の52.9%、障がい児の20.4%となっています。

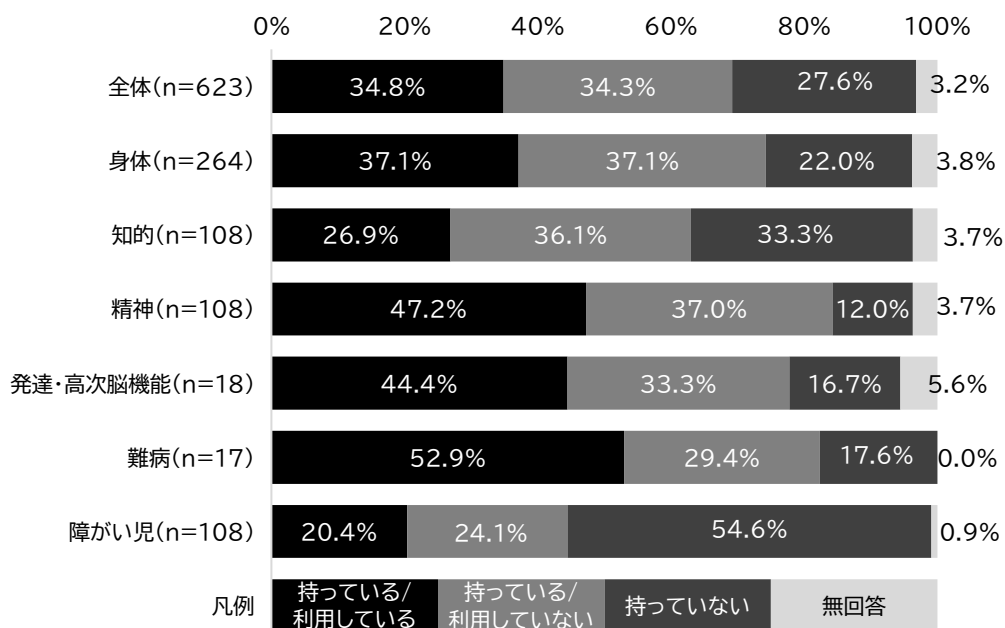
図表1 (1) —①

全体、障害福祉サービス等の
利用別／情報の取得元



図表1 (1) —②

障がい種別／スマートフォンやタブレットを持っているか、情報を取得しているか
※問9、問9-1再集計



※ここでの無回答は、問9または問9-1のいずれかが無回答だった方を表します。

(2) 地域包括支援センター、相談支援事業所や相談先について

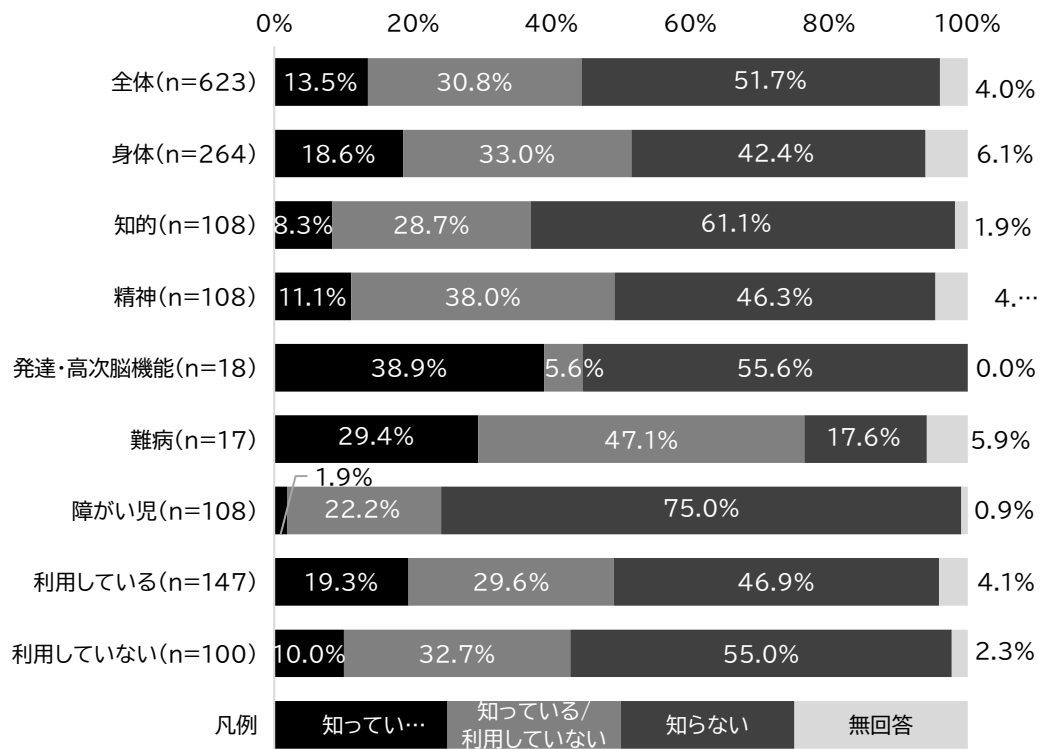
① 地域包括支援センターを「知らない (いいえ)」と回答した割合は 51.7%。「知っている (はい)」且つ「利用している (はい)」と回答した割合は 13.5%

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問7	障児	問7
	問12		問12
	問12-1		問12-1

- 地域包括支援センターについて、「知らない (いいえ)」と回答した割合は全体の約半数を占める一方で、「知っている (はい)」且つ「利用している (はい)」と回答した割合は13.5%となっています。
- 障がい種別にみると、「知らない (いいえ)」と回答した割合は、障がい児 (75.0%)、知的障がい (61.1%) で他より高い傾向がみられます。
- 障害福祉サービス等の利用・未利用別にみると、利用者でも46.9%が「知らない (いいえ)」と回答しています。

図表1 (2) -①

全体、障がい種別、障害福祉サービス等の利用別/地域包括支援センターの認知度・利用有無
※問12、問12-1再集計



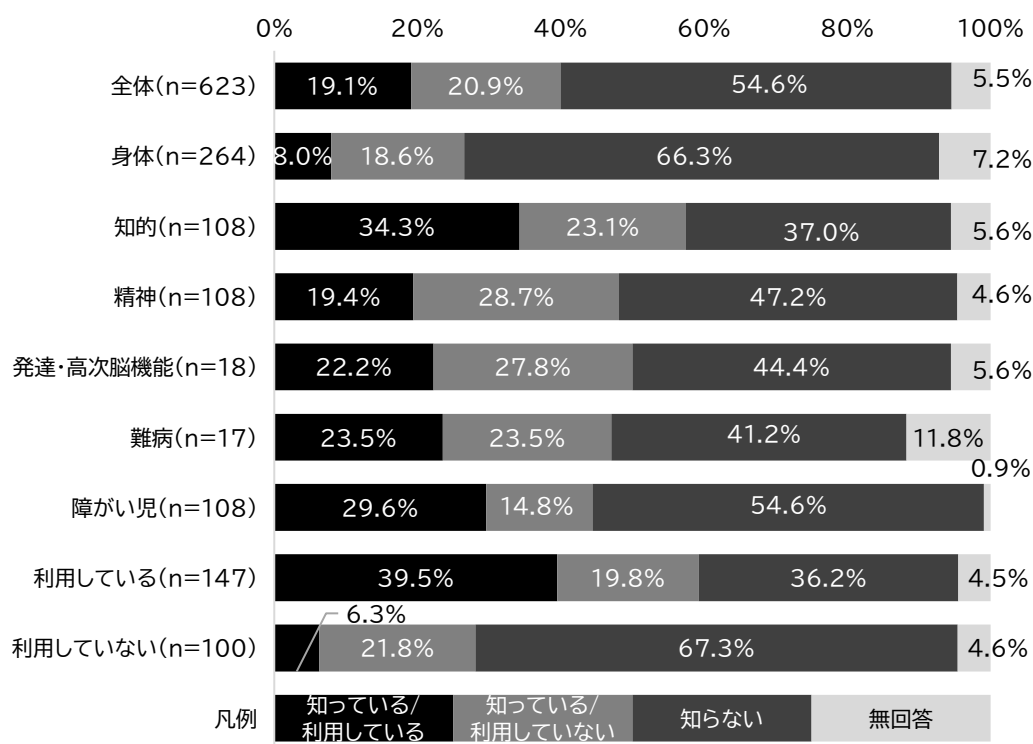
※ここでの無回答は、問12または問12-1のいずれかが無回答だった方を表します。

② 相談支援事業所を「知らない(いいえ)」と回答した割合は54.6%。「知っている(はい)」且つ「利用している(はい)」と回答した割合は19.1%

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問7	障児	問7
	問13		問13
	問13-1		問13-1

- 相談支援事業所について、「知らない(いいえ)」と回答した割合は全体の約半数を占める一方で、「知っている(はい)」且つ「利用している(はい)」と回答した割合は19.1%となっています。
- 障がい種別にみると、「知らない(いいえ)」と回答した割合は、身体障がい(66.3%)で他より高い傾向がみられます。
- 障害福祉サービス等の利用・未利用別にみると、利用者でも36.2%が「知らない(いいえ)」と回答しています。

図表1(2)ー②
全体、障がい種別、障害福祉サービス等の利用別／相談支援事業所の認知度・利用有無
※問13、問13-1再集計



※ここでの無回答は、問13または問13-1のいずれかが無回答だった方を表します。

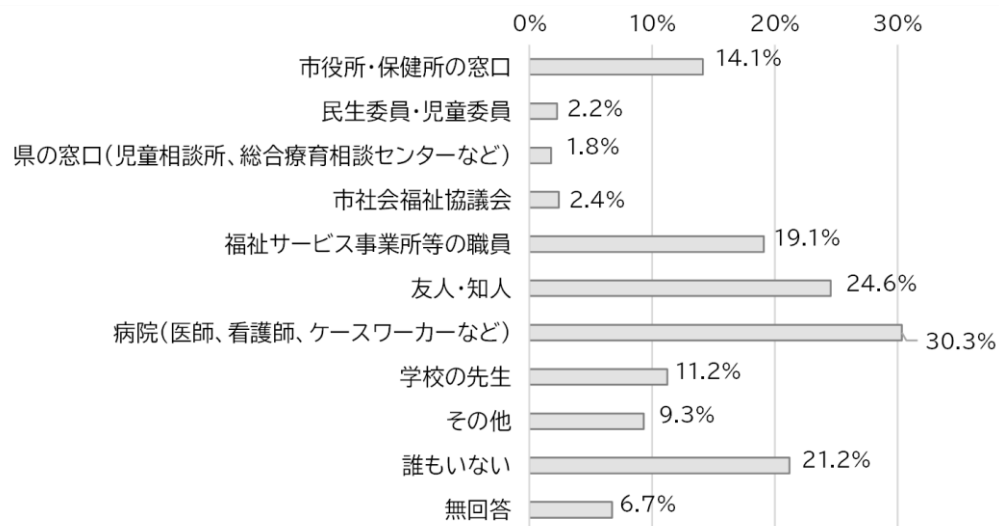
③ 家族や親戚、地域包括支援センター、相談事業所以外の相談相手が「誰もいない」と回答した割合は21.2%

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 14	障児	問 14
-------------------	------	----	------

- 家族や親戚、地域包括支援センター、相談事業所以外の相談相手について、全体では「病院（医師、看護師、ケースワーカーなど）」（30.3%）と回答した割合が最も高く、「友人・知人」と続きます。また、21.2%が「誰もいない」と回答しています。

図表1 (2) —③

全体／悩みごとや心配ごとにおける家族や親戚、地域包括支援センター、相談支援事業所以外の相談相手



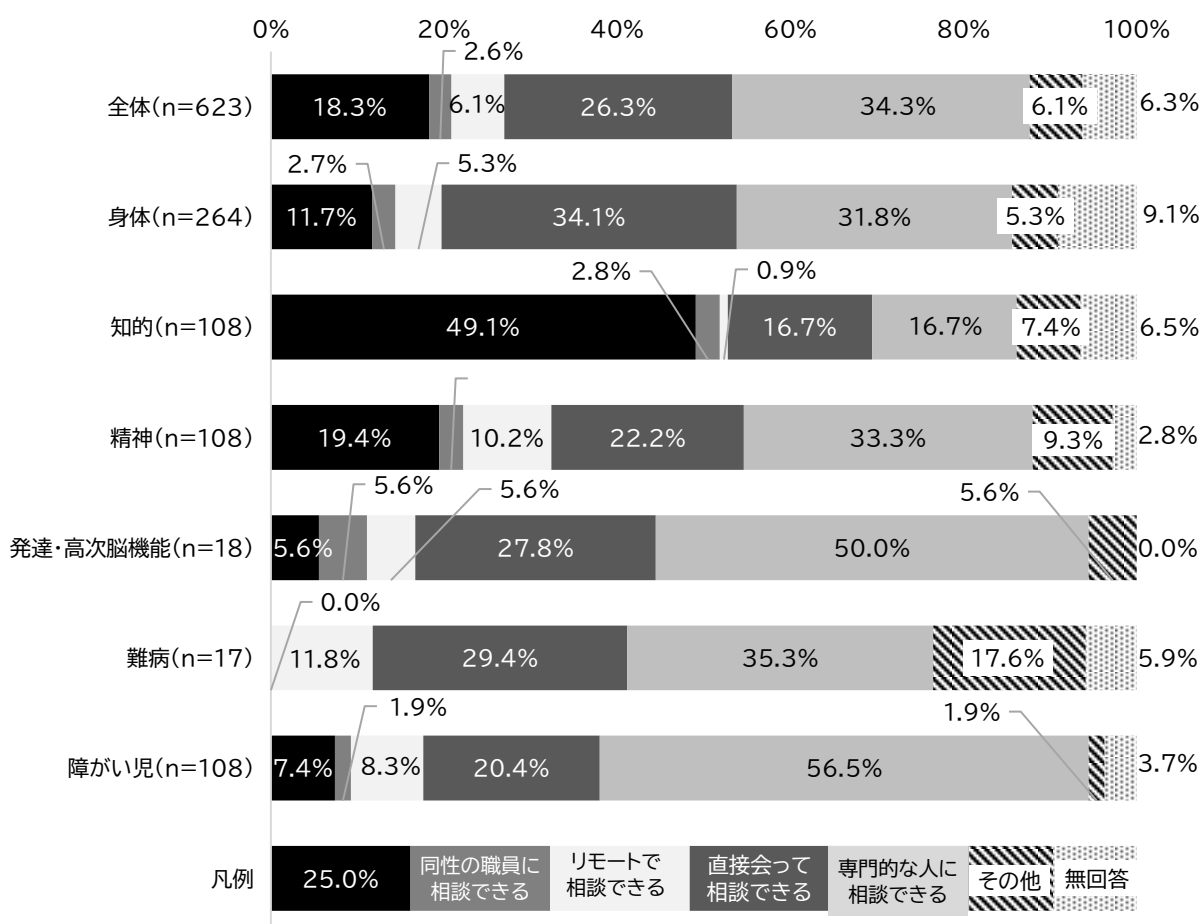
④ 最も相談しやすい窓口としては、身体障がいでは「直接会って相談できる」、知的障がいでは「24時間相談できる」、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、難病、障がい児では「専門的な人に相談できる」ことを重視している方が多い

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 15	障児	問 15
-------------------	------	----	------

- 最も相談しやすい窓口としては、全体では「専門的な人に相談できる」（34.3%）と回答した割合が最も高く、「直接会って相談できる」（26.3%）と続きます。また、「リモートで相談できる」と回答した割合は6.1%となっており、リモートよりも直接会って相談できることを重視している方が多いことがうかがわれます。
- 障がい種別で見ると、身体障がいでは「直接会って相談できる」、知的障がいでは「24時間相談できる」、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がい、難病、障がい児では「専門的な人に相談できる」と回答した割合が最も高くなっています。

図表1(2)ー④

全体、障がい種別／最も相談しやすい窓口



(3) 障がい理解について

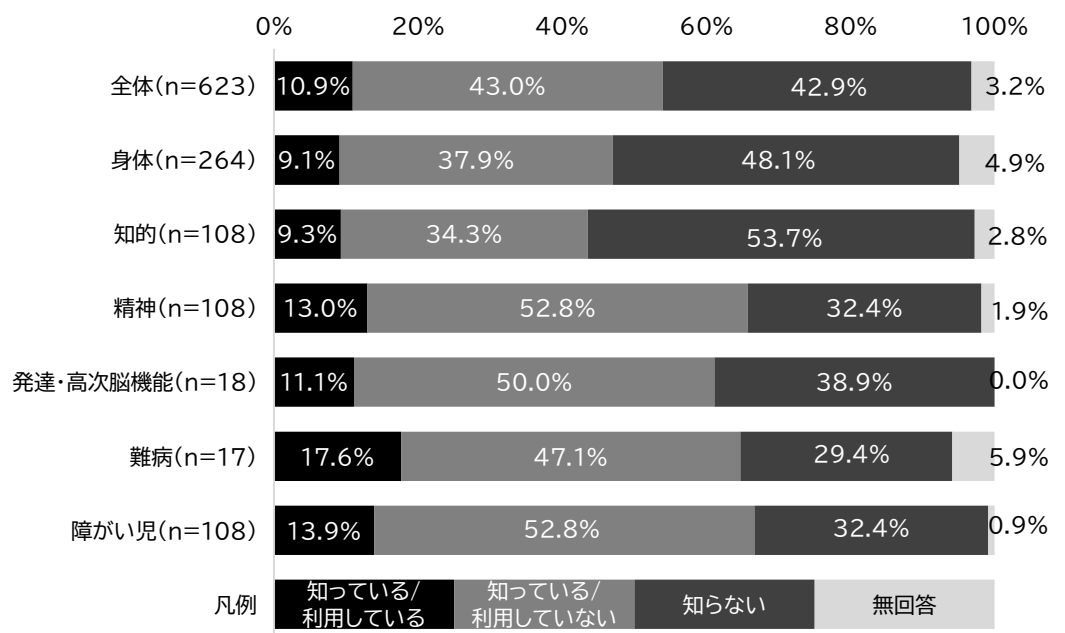
① ヘルプマークを「知っている (はい)」且つ「利用している (はい)」と回答した割合は10.9%

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 16	障児	問 16
	問 16-1		問 16-1

- ヘルプマークについて、「知らない (いいえ)」と回答した割合は42.9%を占める一方で、「知っている (はい)」且つ「利用している (はい)」と回答した割合は10.9%となっています。
- 障がい種別にみると、「知らない (いいえ)」と回答した割合は、身体障がい (48.1%)、知的障がい (53.7%) で他より高い傾向がみられます。

図表1 (3) -①

全体、障がい種別／ヘルプマークの認知度・利用有無
※問 16、問 16-1 再集計



※ここでの無回答は、問 16 または問 16-1 のいずれかが無回答だった方を表します。

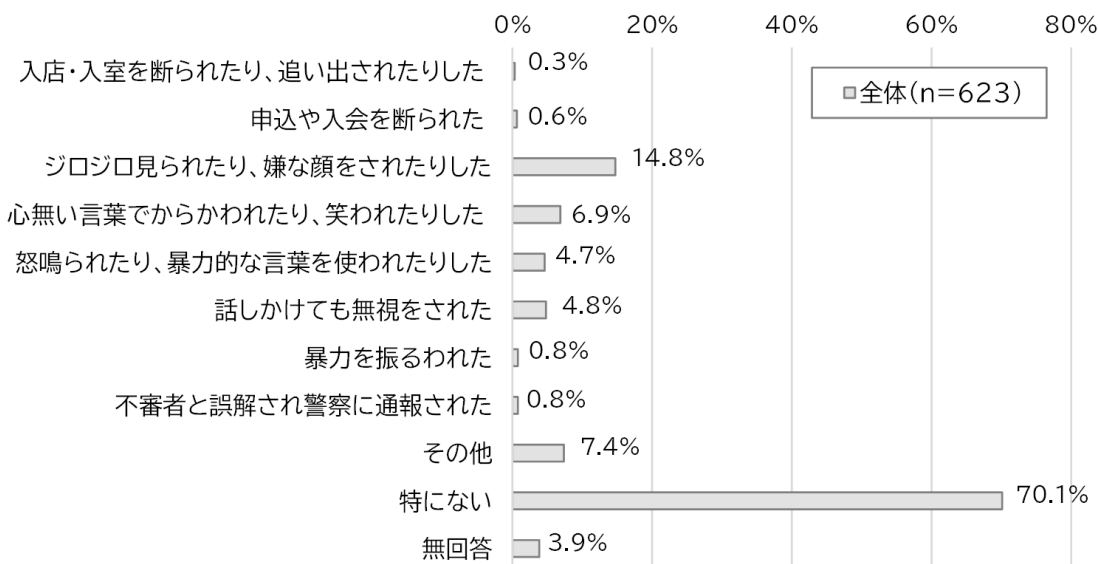
② 障がいを理由に他の人と違う扱いを受けたり、嫌な思いをしたりした経験がない割合は 70.1%

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 18	障 児	問 18
-------------------	------	-----	------

- 障がいを理由に他の人と違う扱いを受けたり、嫌な思いをしたりした経験がない方は、身体障がい、発達障がい・高次脳機能障がいでは80%を超えますが、知的障がい（56.5%）、精神障がい（57.4%）、難病（64.7%）、障がい児（60.2%）で低い傾向がみられます。

図表1(3)―②

全体、障がい種別／他の人と違う扱いを受けたり、嫌な思いをしたりした経験



	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
入店・入室を断られたり、追い出されたりした	%	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.9
申込や入会を断られた	%	0.6	0.4	0.0	1.9	0.0	0.0	0.9
ジロジロ見られたり、嫌な顔をされたりした	%	14.8	4.5	28.7	15.7	0.0	17.6	26.9
心無い言葉でからかわれたり、笑われたりした	%	6.9	1.1	9.3	16.7	5.6	0.0	10.2
怒鳴られたり、暴力的な言葉を使われたりした	%	4.7	1.5	6.5	12.0	0.0	0.0	4.6
話しかけても無視をされた	%	4.8	1.9	10.2	9.3	5.6	0.0	2.8
暴力を振るわれた	%	0.8	0.0	0.9	2.8	0.0	0.0	0.9
不審者と誤解され警察に通報された	%	0.8	0.4	2.8	0.9	0.0	0.0	0.0
その他	%	7.4	4.5	4.6	17.6	5.6	11.8	6.5
特になし	%	70.1	84.5	56.5	57.4	83.3	64.7	60.2
無回答	%	3.9	4.9	3.7	3.7	5.6	5.9	0.9

2 障がい者の健康を支える体制の強化 【基本方針2】

(1) 健康・医療について

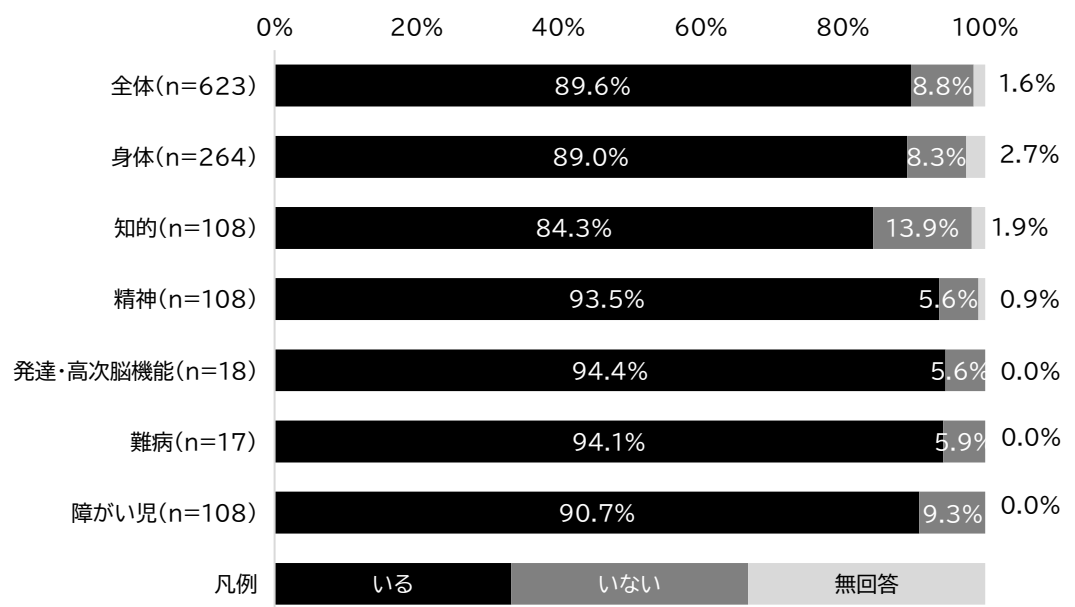
① かかりつけ医が「いない(いいえ)」と回答した割合は8.8%

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 19	障児	問 19
-------------------	------	----	------

- かかりつけ医が「いる(はい)」と回答した割合は89.6%となっています。
- 障がい種別でみると、「いる(はい)」と回答した割合は、知的障がい(84.3%)でやや低い傾向がみられるものの、いずれも90%前後となっています。

図表2(1)ー①

全体、障がい種別／かかりつけ医の有無



3 障がい者の生活基盤の強化 【基本方針3】

(1) 日常生活について

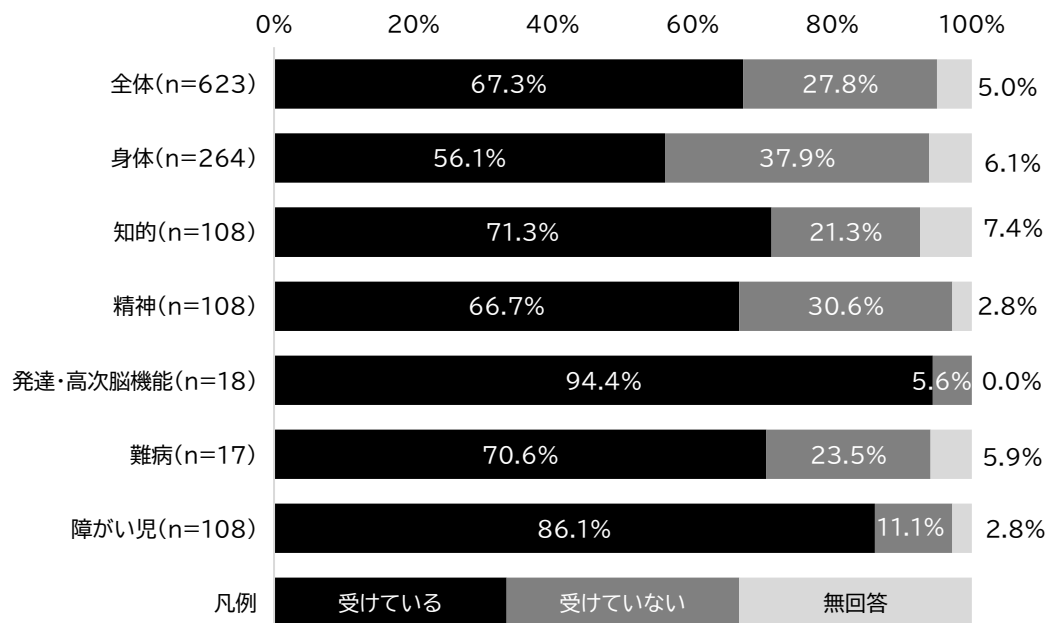
① 現在生活するうえで、家族からのサポートを受けている方は67.3%

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 22	障児	問 22
-------------------	------	----	------

- 現在生活するうえで、家族からのサポートを「受けている（はい）」と回答した割合は、全体で67.3%となっています。
- 障がい種別でみると、家族からのサポートを「受けている（はい）」と回答した割合は、身体障がい（56.1%）、精神障がい（66.7%）ではやや低くなっていますが、他は70%以上となっています。

図表3（1）—①

全体、障がい種別／家族からのサポート有無



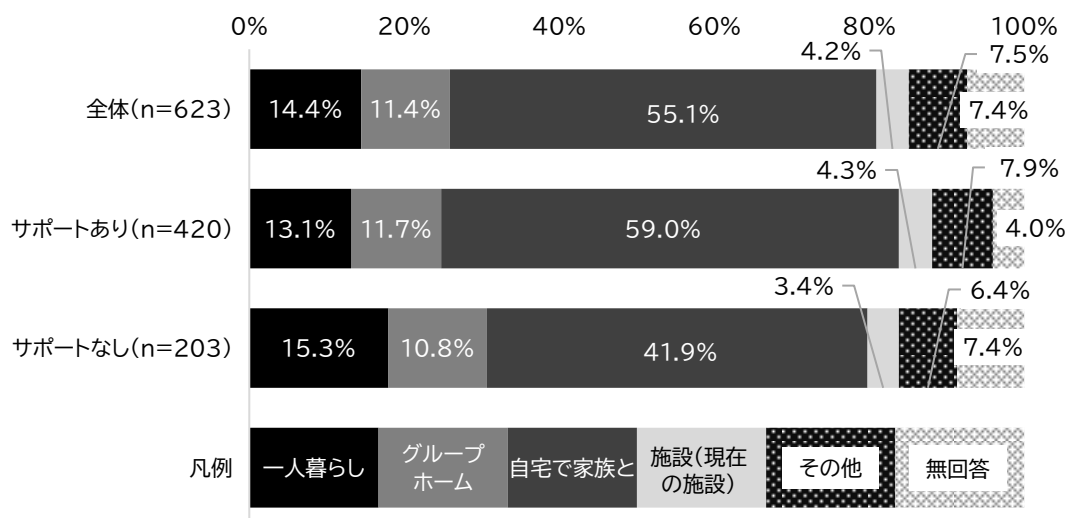
② 希望する将来の暮らし方としては、「自宅で家族と暮らしたい」が半数以上、「一人暮らしをしたい」、「グループホームで暮らしたい」は各1割程度

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 22	障児	問 22
	問 23		問 23

- 希望する将来の暮らし方について、全体では「自宅で家族と暮らしたい」（55.1%）と回答した割合が最も高くなっています。
- 家族からサポートの有無別で見ると、いずれも「自宅で家族と暮らしたい」と回答した割合が最も高くなっていますが、家族からのサポートを受けている方ではより高い傾向がみられます。また、家族からのサポートを受けている方でも13.1%が「一人暮らしをしたい」、11.7%が「グループホームで暮らしたい」と回答しています。

図表3（1）－②

全体、家族からのサポート有無別／希望する将来の暮らし方



※ここでの無回答は、問 22 または 問 23 のいずれかが無回答だった方を表します。

※ここでのグループホームは、一軒家またはマンションの中の1室に住む共同生活タイプ希望者(風呂・トイレを共同利用する)とアパートの1室に住む一人暮らしタイプ希望者の合計です。

4 社会参加と自己実現への支援 【基本方針4】

(1) 働くことについて

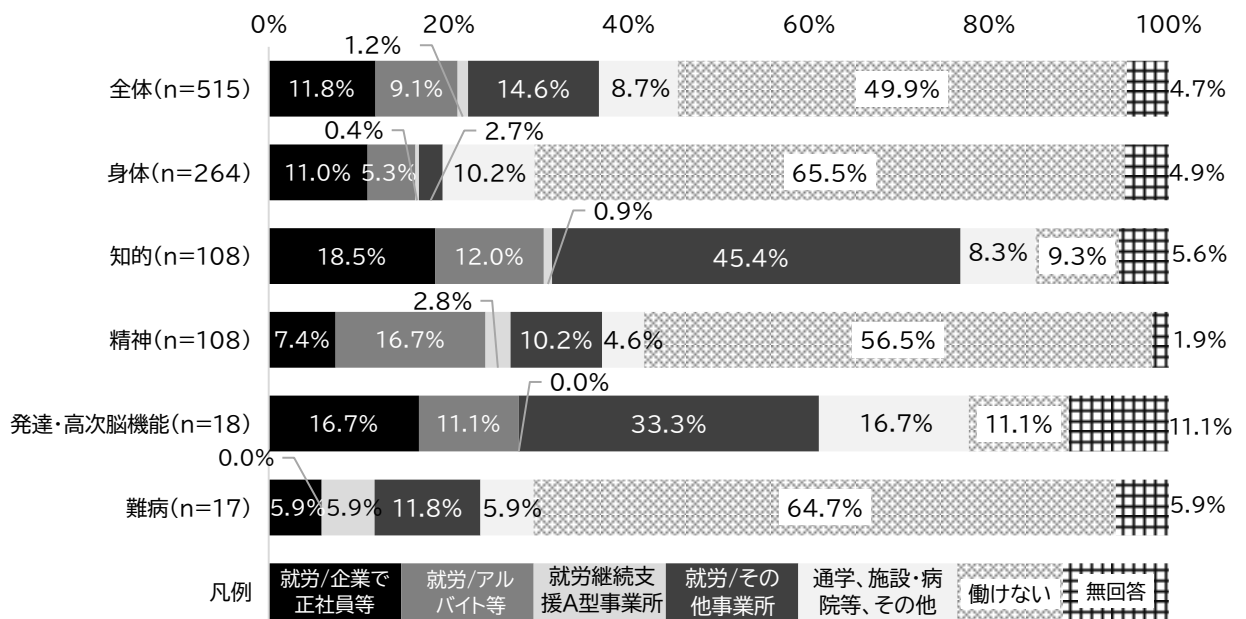
① 昼間に就労している割合は36.7%である一方、「働けない、働いていない」割合は49.9%

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問27	障児	-
	問27-1		

- 昼間の時間に過ごしている場所等について、全体では「働けない、働いていない」（49.9%）と回答した割合が最も高くなっています。また、「企業等で正社員として就労（就労定着支援を含む）」（11.8%）、「アルバイト・パートで就労」（9.1%）、「就労継続支援A型事業所で就労」（1.2%）、「その他の事業所で働いている・過ごしている」（14.6%）を合計すると、36.7%が就労していると回答しています。
- 障がい種別でみると、就労している割合は、身体障がいの19.4%、知的障がいの76.8%、精神障がいの37.1%、発達障がい・高次脳機能障がいの61.1%、難病の23.6%となっています。

図表4（1）—①

全体、障がい種別／昼間の時間に過ごしている場所

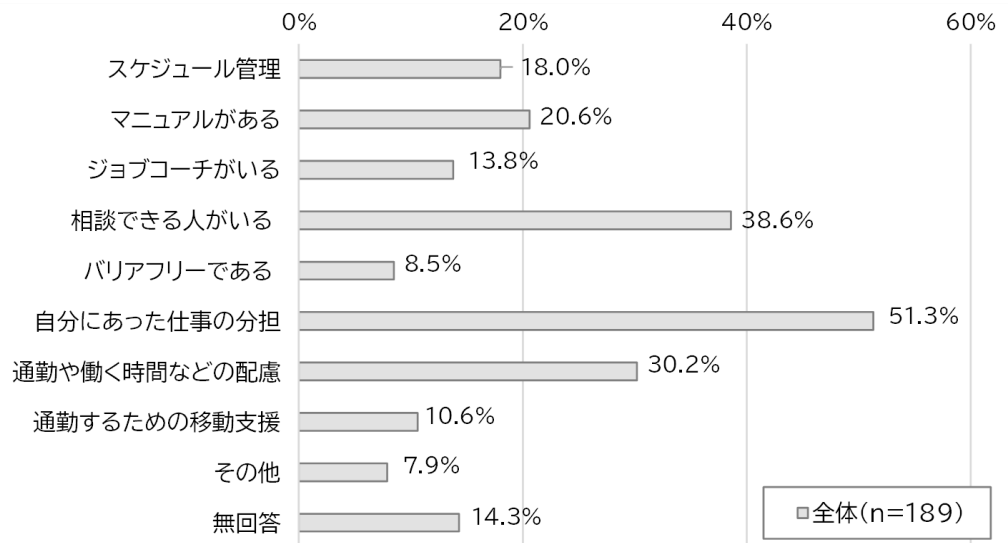


② 就労している方が必要な支援・サポートとしては51.3%が「自分にあつた仕事の分担」と回答

- 就労している方の必要な支援・サポートとして、全体では「自分にあつた仕事の分担」（51.3%）と回答した割合が最も高く、「相談できる人がいる」（38.6%）、「通勤や働く時間の配慮」（30.2%）と続きます。

図表4（1）－②

全体／どのような支援・サポートが必要か



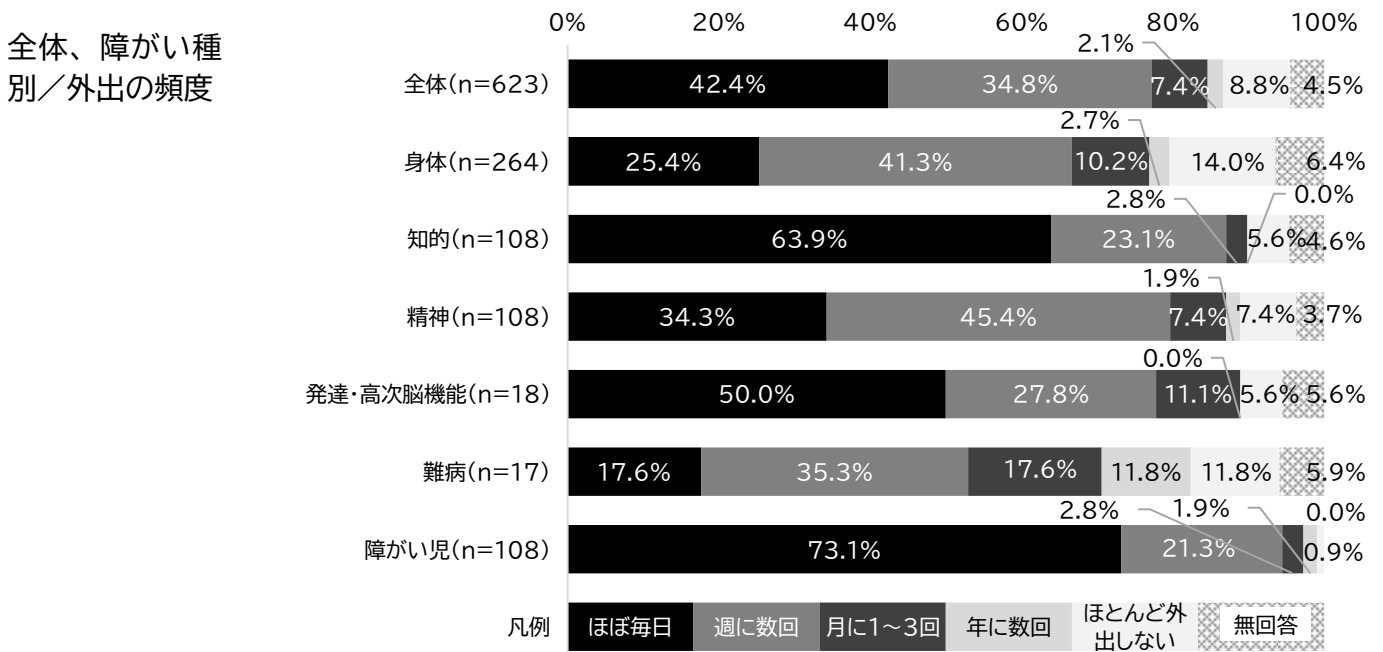
(2) 外出について

① 普段の外出を「年に数回」・「ほとんどしない」と回答した割合は10.9%

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 29	障児	問 30
-------------------	------	----	------

- 全体では、「ほぼ毎日」(42.4%)と回答した割合が最も高くなっていますが、「年に数回」(2.1%)、「ほとんど外出しない」(8.8%)と回答した方も約1割います。
- 障がい種別でみると、「年に数回」・「ほとんど外出しない」と回答した割合の合計は、身体障がいの16.7%、知的障がいの5.6%、精神障がいの9.3%、発達障がい・高次脳機能障がいの5.6%、難病の23.6%、障がい児の2.8%となっており、身体障がいと難病でやや高い傾向となっています。

図表4(2) —①



※ここでの「週に数回」は、週に3~4回、週に1~2回と回答した方の合計です。

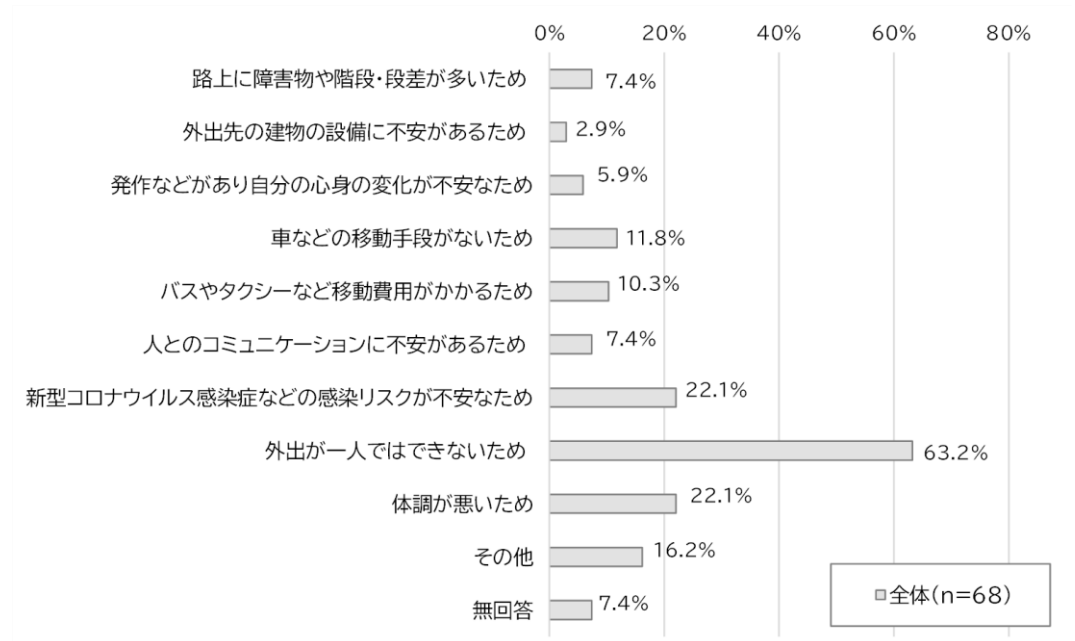
② 普段の外出を「年に数回」・「ほとんどしない」と回答した理由としては、63.2%が「外出が一人ではできないため」と回答

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 29-1	障児	問 30-1
-------------------	--------	----	--------

- 普段の外出を「年に数回」・「ほとんどしない」と回答した理由としては、「外出が一人ではできないため」（63.2%）と回答した割合が最も高くなっています。

図表4（2）—②

全体／外出しない理由



5 障がいのある子どもの成長支援 【基本方針5】

(1) 障がいの認知について

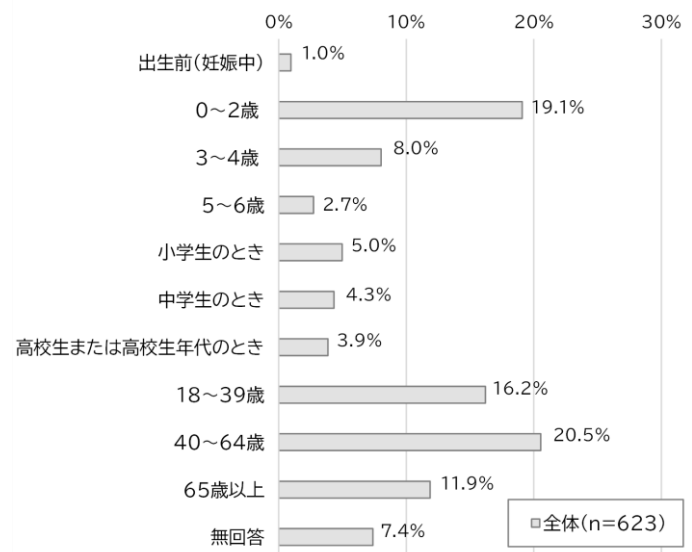
① 障がいに気付いた時期としては、20.5%が「40～64歳」、19.1%が「0～2歳」と回答

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問31	障児	問32
-------------------	-----	----	-----

- 障がいに気付いた時期について、全体では「40～64歳」（20.5%）と回答した割合が最も高く、「0～2歳」（19.1%）と続きます。
- 障がい種別でみると、身体障がい、難病では「40～64歳」、知的障がい、障がい児では「0～2歳」、精神障がい、発達障がい・高次脳機能障がいでは「18～39歳」と回答した割合が最も高くなっています。

図表5（1）—①

全体、障がい種別／障がいに気付いた時期



	単位	全体	調査票種類					
			身体障がい	知的障がい	精神障がい	高次脳機能障がい・発達障がい	難病	障がい児
回答総数	件	623	264	108	108	18	17	108
出生前(妊娠中)	%	1.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7
0～2歳	%	19.1	5.3	38.9	0.0	5.6	5.9	56.5
3～4歳	%	8.0	1.5	12.0	2.8	0.0	5.9	26.9
5～6歳	%	2.7	1.5	6.5	1.9	0.0	0.0	3.7
小学生のとき	%	5.0	2.3	9.3	3.7	11.1	5.9	7.4
中学生のとき	%	4.3	0.8	12.0	8.3	11.1	5.9	0.0
高校生または高校生年代のとき	%	3.9	1.1	9.3	10.2	0.0	0.0	0.0
18～39歳	%	16.2	13.3	3.7	47.2	38.9	23.5	
40～64歳	%	20.5	35.6	2.8	20.4	22.2	29.4	
65歳以上	%	11.9	26.5	0.0	0.9	0.0	17.6	
無回答	%	7.4	11.4	5.6	4.6	11.1	5.9	1.9

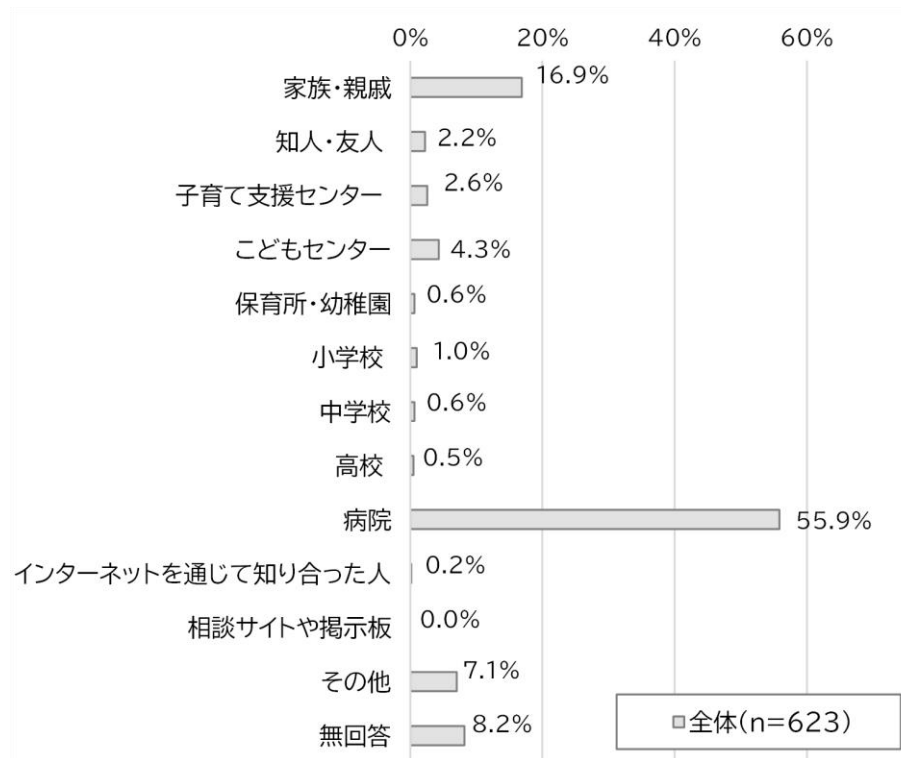
② 障がいについて、最初に相談した先は、55.9%が「病院」と回答

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 32	障児	問 33
-------------------	------	----	------

- 障がいについて、最初に相談した先については、全体では「病院」（55.9%）と回答した割合が最も高く、「家族・親戚」（16.9%）と続きます。

図表5（1）—②

全体／障がいについての最初の相談先



(2) 障がい児の就学・就労について

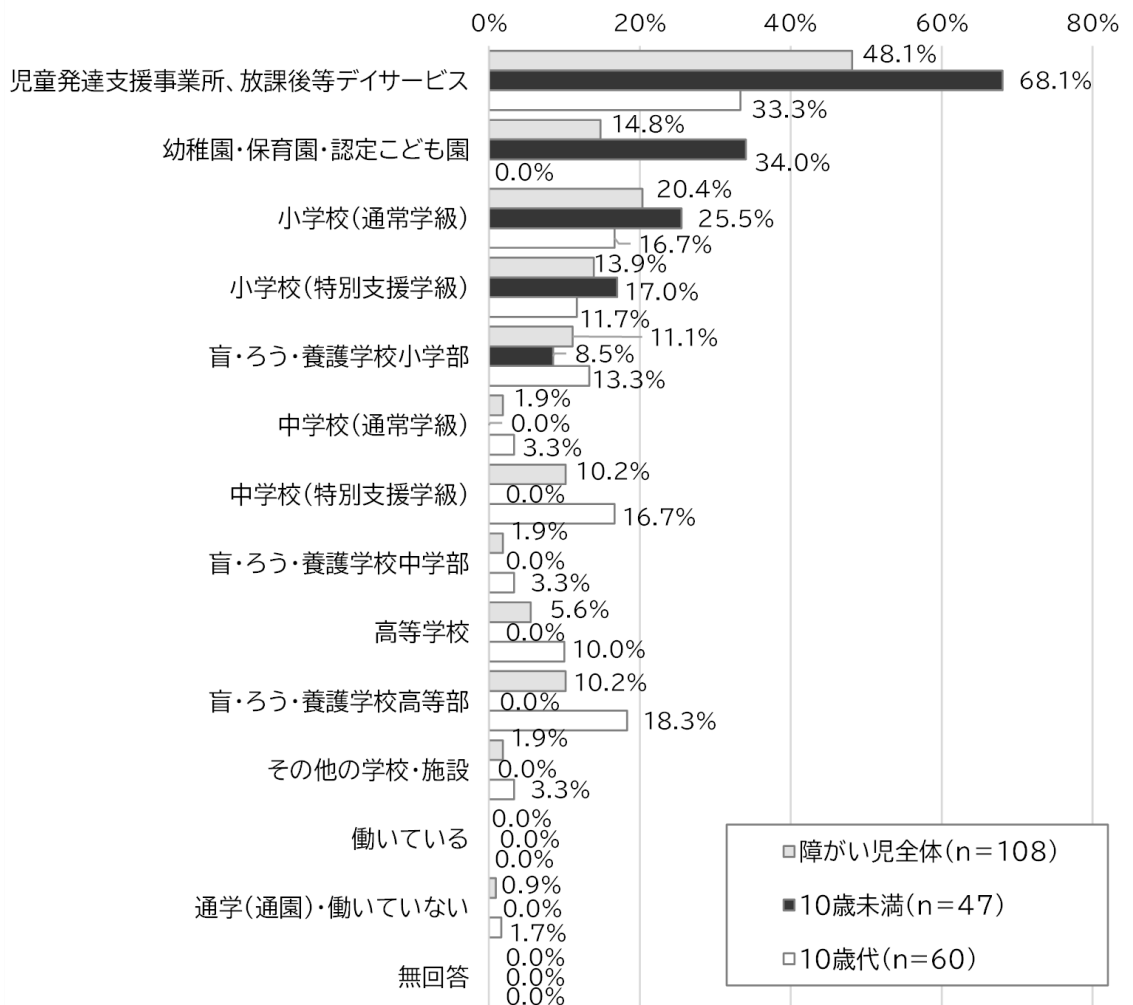
① 通学・通所している場所としては、48.1%が「児童発達支援事業所、放課後等デイサービス」と回答

身体・知的・精神・発達・高次・難病	-	障児	問 27
			問 27-1
			問 27-2
			問 27-3

- 通学・通所している場所について、全体では「児童発達支援事業所、放課後等デイサービス」(48.1%)と回答した割合が最も高く、「小学校(通常学級)」(20.4%)と続きます。
- 年齢別でみると、「10歳未満」では「児童発達支援事業所、放課後等デイサービス」(68.1%)と回答した割合が最も高く、「幼稚園・保育園・認定こども園」(34.0%)と続きます。「10歳代」でも「児童発達支援事業所、放課後等デイサービス」(33.3%)が最も高く、「盲・ろう・養護学校高等部」(18.3%)と続きます。

図表5(2)ー①

障がい児全体、年齢／通学・通所している場所

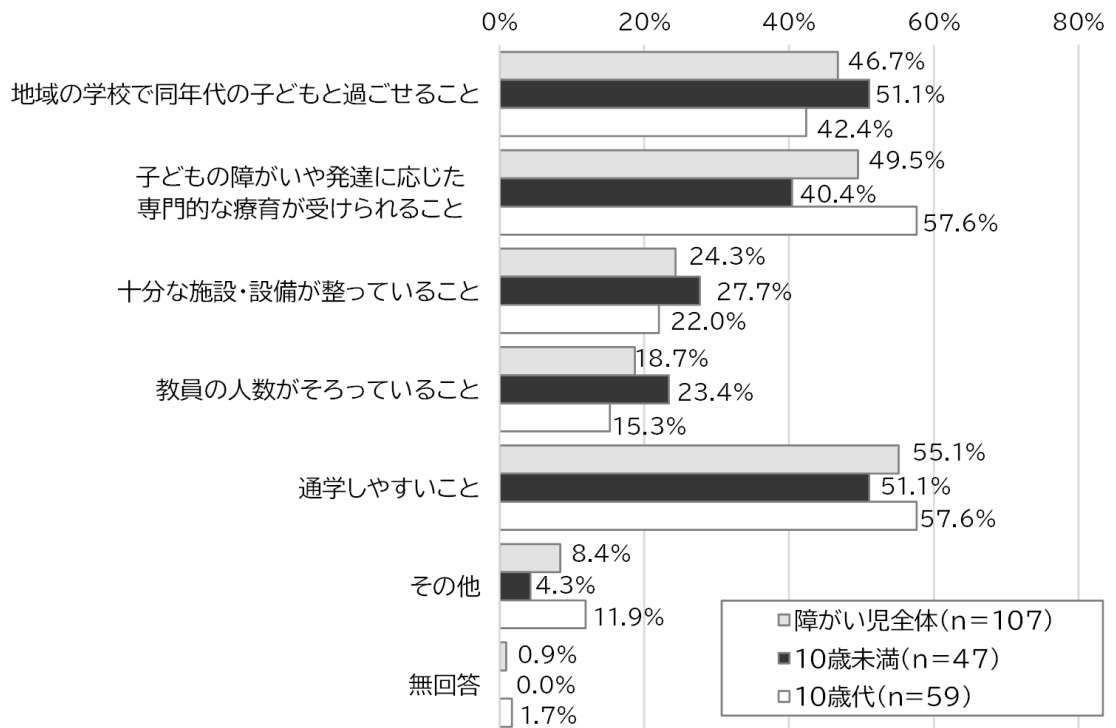


② 入学にあたって重視したこととしては、55.1%が「通学しやすいこと」と回答

- 入学にあたって重視したことについて、全体では「通学しやすいこと」（55.1%）と回答した割合が最も高くなっています。
- 年齢別で見ると、「10歳未満」では「地域の学校で同年代の子どもと過ごせること」（51.1%）、「通学しやすいこと」（51.1%）、「10歳代」では「子どもの障がいや発達に応じた専門的な療育が受けられること」（57.6%）、「通学しやすいこと」（57.6%）と回答した割合が最も高くなっています。

図表5（2）—②

障がい児全体、年齢／入学にあたって重視したこと



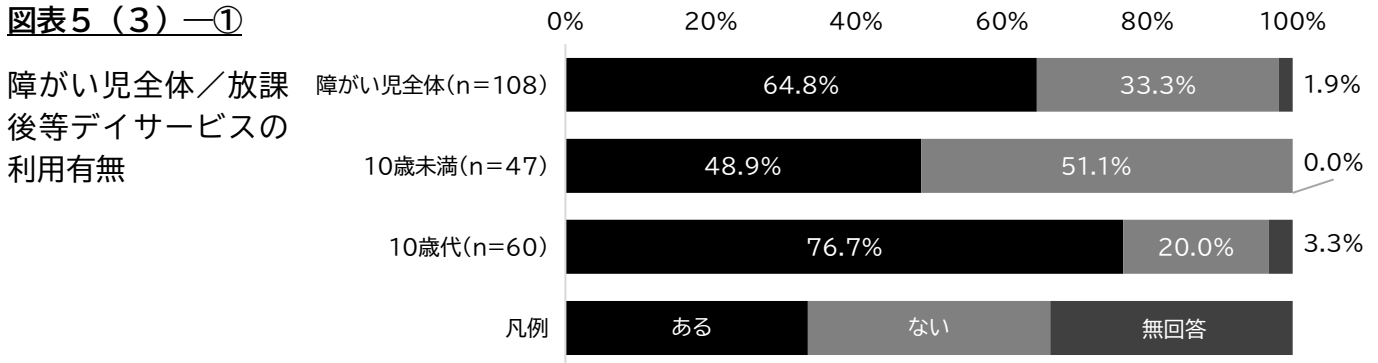
(3) 放課後等デイサービスについて

① 放課後等デイサービスの利用者は 64.8%

身体・知的・精神・発達・高次・難病	-	障児	問 35
-------------------	---	----	------

- 障がい児全体の64.8%が放課後等デイサービスを利用したことが「ある」と回答しています。

図表5 (3) —①

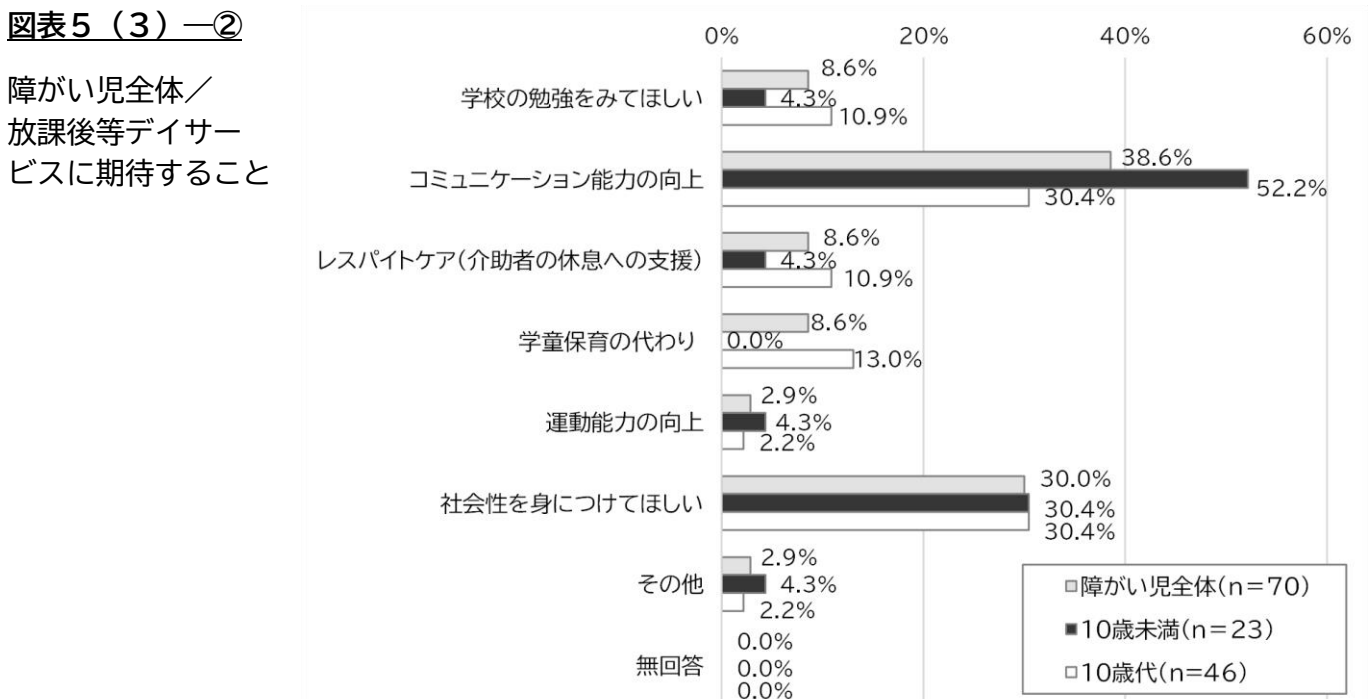


② 利用者が放課後等デイサービスに期待することとして、コミュニケーション能力の向上や社会性を身につけることを重視する方が多い

身体・知的・精神・発達・高次・難病	-	障児	問 35-1
-------------------	---	----	--------

- 利用者が放課後等デイサービスに期待することとして、全体では「コミュニケーション能力の向上」(38.6%)と回答した割合が最も高く、「社会性を身につけてほしい」(30.0%)と続きます。
- 年齢別でみると、「10歳未満」では「コミュニケーション能力の向上」(52.2%)と回答した割合が最も高く、「社会性を身につけてほしい」(30.4%)と続きます。「10歳代」では、「コミュニケーション能力の向上」(30.4%)、「社会性を身につけてほしい」(30.4%)が同じ割合となっています。

図表5 (3) —②



6 安心して暮らす 【基本方針6】

(1) 安心して生活できるまちづくり

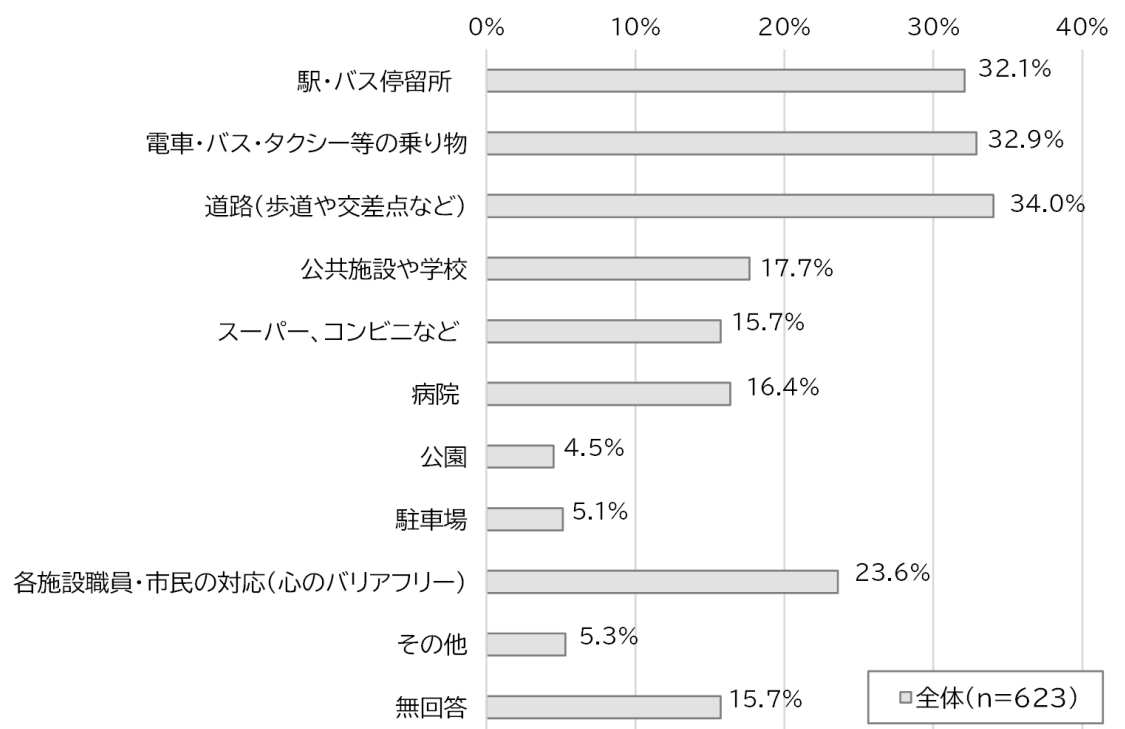
- ① バリアフリー化を進めてほしいと考えるものとして、全体では、「道路（歩道や交差点など）」、「電車・バス・タクシー等の乗り物」、「駅・バス停留所」を重視する方が多い

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 39	障児	問 36
-------------------	------	----	------

- バリアフリー化を進めてほしいと考えるものについて、全体では「道路（歩道や交差点など）」（34.0%）と回答した割合が最も高く、「電車・バス・タクシー等の乗り物」（32.9%）、「駅・バス停留所」（32.1%）と続きます。

図表6(1)ー①

全体、障がい種別／
バリアフリー化を進めてほしいこと



(2) 災害時・緊急時の避難場所等について

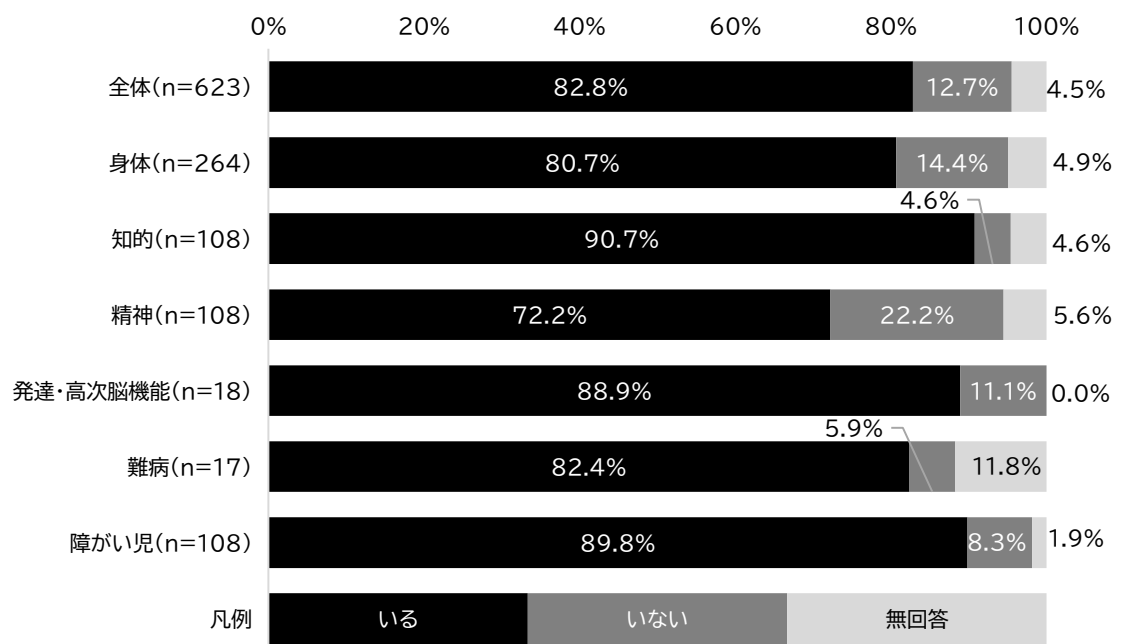
① 災害時・緊急時に手助けをしてくれる人が「いない」割合は12.7%

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 40	障児	問 37
	問 40-1		問 37-1

- 災害時・緊急時に手助けをしてくれる人について、全体の12.7%が「いない」と回答しています。
- 障がい種別でみると、「いない」と回答した割合は、精神障がいでは22.2%となっており、他は10%前後であることと比べると、やや高い傾向にあります。

図表6(2) —①

全体、障がい種別／
災害時・緊急時に手
助けをしてくれる
人の有無



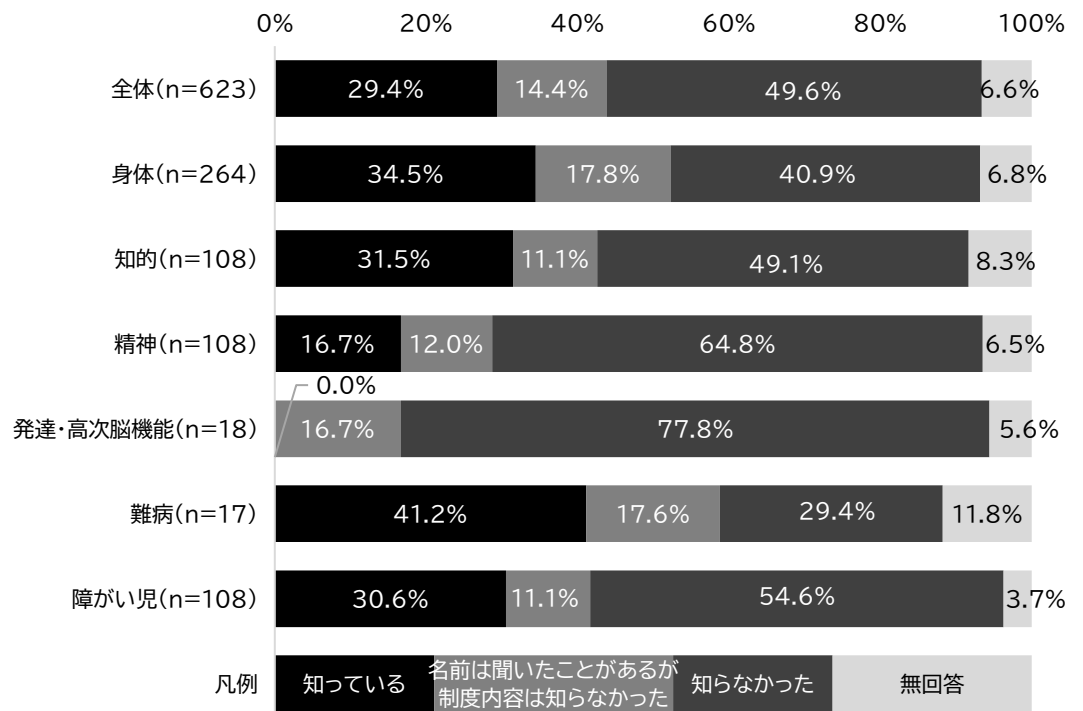
② 避難行動要支援者支援制度を「知っている」割合は29.4%

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 41	障児	問 38
-------------------	------	----	------

- 避難行動要支援者支援制度について、全体では「知らなかった」（49.6%）、「知っている」（29.4%）と回答しています。
- 障がい種別で見ると、「知らなかった」と回答した割合は、身体障がい40.9%、知的障がい49.1%、精神障がい64.8%、発達障がい・高次脳機能障がい77.8%、難病29.4%、障がい児54.6%となっています。

図表6（2）—②

全体、障がい種別／避難行動要支援者支援制度の認知度



(3) 障がい福祉について

① 障がい福祉をより良くするために、必要なこととして、「相談しやすさ」、「情報の取得しやすさ、わかりやすさ」を重視する方が多い

身体・知的・精神・発達・高次・難病	問 45	障児	問 42
-------------------	------	----	------

- 障がい福祉をより良くするために、必要なこととして、全体では「相談しやすさ」（48.8%）と回答した割合が最も高く、「情報の取得しやすさ、わかりやすさ」（48.3%）、「日常生活を支援する障害福祉サービス等の充実」（33.7%）と続きます。

図表6 (3) —①

全体／障がい福祉をより良くするために、必要なこと

